

Netfinity マネージャー

SA88-6556-00

コマンドライン・インターフェース
リファレンス **Version 5.2**

IBM

Netfinity マネージャー

SA88-6556-00

コマンドライン・インターフェース
リファレンス **Version 5.2**

お願い

本書の情報とそれによってサポートされている製品をご使用の際は、最初に189ページの付録B、『特記事項』をお読みください。

第 1 版 (1998 年 8 月)

原 典	10L9270 Netfinity Manager Command Reference
発 行	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当	ナショナル・ランゲージ・サポート

本書について	vii
本書の対象読者	vii
第1章 Netfinity コマンドの一般仕様	1
テキスト・モード実行可能ファイル	1
戻りコードの出力	1
他のツールによる処理のためのデータ出力	3
第2章 アラート・マネージャ (NFALRTCL)	7
NFALRTCL /?	8
NFALRTCL /LISTLOG	9
NFALRTCL /DELLOG	12
NFALRTCL /LISTHAND	14
NFALRTCL /LISTACT	16
NFALRTCL /DELACT	20
NFALRTCL /ADDPACT	23
NFALRTCL /ADDACT	25
NFALRTCL /EDITPACT	27
NFALRTCL /EDITACT	31
NFALRTCL /LISTPROF	36
NFALRTCL /DELPROFILE	38
NFALRTCL /ADDCPROF	40
NFALRTCL /ADDPROFILE	42
NFALRTCL /EDITCPROF	44
NFALRTCL /EDITPROF	46
第3章 クリティカル・ファイル・モニター CLI (NFCRTFCL)	49
NFCRTFCL /?	50
NFCRTFCL /LIST	51
NFCRTFCL /DELSYS	53
NFCRTFCL /DELSTD	54
NFCRTFCL /SETSYS	55
NFCRTFCL /SETSTD	57

第4章 プロセス・マネージャー CLI (NFPROCCL)	59
NFPROCCL /?	60
NFPROCCL /GETPROC	61
NFPROCCL /RUNCMD	63
NFPROCCL /LISTMON	64
NFPROCCL /ADDMON	66
NFPROCCL /DELMON	68
NFPROCCL /EDITMON	69
第5章 システム・プロファイル CLI (NFPROFCL)	71
NFPROFCL /?	72
NFPROFCL /GETALL	73
NFPROFCL /GET	75
NFPROFCL /SET	77
NFPROFCL /SETMANY	79
第6章 サービス構成マネージャー CLI (NFREPLCL)	81
NFREPLCL /?	82
NFREPLCL /LISTFILES	83
NFREPLCL /LISTREMOTES	84
NFREPLCL /LISTSERVICES	85
NFREPLCL /SHOW	86
NFREPLCL /PRUNE	88
NFREPLCL /DELETE	89
NFREPLCL /SAVE	90
NFREPLCL /RESTORE	91
第7章 リモート・システム・マネージャー CLI (NFRSYSCL)	93
NFRSYSCL /?	94
NFRSYSCL /GETGRP	95
NFRSYSCL /GETSYS	97
NFRSYSCL /RUNSYS	100
NFRSYSCL /DELSYS	103
NFRSYSCL /ADDSYS	105
NFRSYSCL /EDITSYS	107
NFRSYSCL /DELGROUP	110
NFRSYSCL /ADDGROUP	112
NFRSYSCL /EDITGRP	115

NFRSYSCL /BOOTSYS	118
NFRSYSCL /SHUTSYS	120
NFRSYSCL /PWRSYS	122
NFRSYSCL /WAKESYS	124
NFRSYSCL /RESETERRSYS	126
NFRSYSCL /DODISC	128
NFRSYSCL /DOPING	130
第8章 安全保護マネージャー CLI (NFSECCL)	133
NFSECCL /?	134
NFSECCL /LISTIN /ALL	135
NFSECCL /LISTIN /USERID	136
NFSECCL /DELIN /ALL	138
NFSECCL /DELIN /USERID	139
NFSECCL /ADDIN	140
NFSECCL /EDITIN	142
NFSECCL /LISTOUT /ALL	144
NFSECCL /LISTOUT	145
NFSECCL /DELOUT /ALL	147
NFSECCL /DELOUT	148
NFSECCL /ADDOUT	149
NFSECCL /EDITOUT /ALL	150
NFSECCL /EDITOUT	151
第9章 ソフトウェア・インベントリー CLI (NFSINVCL)	153
NFSINVCL /?	154
NFSINVCL /SCAN	155
第10章 システム・モニター CLI (NFSMONCL)	157
NFSMONCL /?	158
NFSMONCL /GETMON	159
NFSMONCL /SETMONREC	162
NFSMONCL /GETMONTHR	164
NFSMONCL /DELMONTHR	167
NFSMONCL /ADDMONTHR	169
NFSMONCL /EDITMONTHR	172
第11章 システム情報ツール CLI (NFSYSICL)	175

NFSYSICL /?	176
NFSYSICL /HIST	177
NFSYSICL /HISTOUT	178
NFSYSICL /RPT	179
NFSYSICL /RPTOUT	180
NFSYSICL /EXPORT	181
付録A. 構文図の読み方	183
必要な構文	183
省略可能なキーワードと変数	184
省略時の値	184
長い構文図	185
構文のフラグメント	185
コンマと括弧	186
強調表示、大括弧、および中括弧	187
省略形	187
付録B. 特記事項	189
商標	190

本書では、Netfinity マネージャー・プログラムの中のコマンドライン・インターフェース (CLI) ツールについて説明します。Netfinity CLI ツールは、経験を積んだユーザーの方が、複雑で膨大なシステム管理作業をコマンドライン形式を用いて実行できるように設計されています。この CLI ツールによって、Netfinity マネージャー・プログラムのシステム管理能力が大幅に拡張されます。

重要

このツールは、Netfinity マネージャー・プログラムについて経験を積まれたユーザーの方のみがお使いください。Netfinity CLI ツールでは、警告やユーザー確認フィードバック (たとえば、「～してよろしいですね?」) が出ることはありません。誤った使い方をした場合は、他の Netfinity システムに重大な影響を生じる恐れもあります。コマンドライン・インターフェースに精通していない場合や、Netfinity サービス・プログラムについて、およびその誤った使用が原因でご使用の Netfinity システムやそれ以外の Netfinity システムで起こりうる問題について、完全に理解していない場合は、Netfinity CLI ツールの使用はお控えください。

本書の対象読者

本書は主として、Netfinity コマンドライン・インターフェースを使用してシステム管理作業の自動化を望まれている、経験を積まれたネットワーク管理者の方々を対象としています。

ご使用のオペレーティング・システム、ネットワークの運用、データベース機能、Netfinity マネージャー、および Netfinity クライアントサービスについて、一般的な知識を身に着けた上で、Netfinity コマンドライン・インターフェースをご使用ください。

第1章 Netfinity コマンドの一般仕様

すべての Netfinity CLI ツールは、以下の各項の仕様に適合しています。

テキスト・モード実行可能ファイル

Netfinity CLI ツールは、すべてがテキスト・モード実行可能ファイルであり、その出力を STDOUT (標準出力) および STDERR (標準エラー出力) に向けて送り出し、入力はすべてコマンドライン・パラメーター、および (必要であれば) テキスト応答ファイルから受け入れます。

- Windows 95 または Windows NT をご使用の場合、ツールは Win32 コンソール・アプリケーションです。
- OS/2 をご使用の場合、ツールは仮想入出力 (VIO) アプリケーションです。
- 16 ビット Windows アプリケーションは、サポートされていません。

戻りコードの出力

戻りコードは、与えられたコマンドライン処理が成功か、失敗かを判別するために使用できます。Netfinity CLI ツールはすべて、以下に挙げる定義に従って、適宜戻りコードを出力します。

戻りコード	説明
0 (NFCMDLINE_SUCCESS)	要求された操作は正常に完了した
1 (NFCMDLINE_SYSTEM_UNAVAILABLE)	ターゲット・システムは利用不可能である、または到達不可能である
2 (NFCMDLINE_SERVICE_DOES_NOT_EXIST)	ターゲット・システム上の必要なサービスが利用不可能である、または定義されていない
3 (NFCMDLINE_NOT_AUTHORIZED)	ターゲット・システム上の必要なサービスのための権限が利用不可能である

4 (NFCMDLINE_TIMEOUT)	ターゲット・システムとの通信がタイムアウトのため失敗
5 (NFCMDLINE_COMMUNICATION_ERROR)	ターゲット・システムとの通信が失敗 (タイムアウト以外の理由)
6 (NFCMDLINE_SERVICE_BUSY)	ターゲット・システム上の必要なサービスは利用可能であるが、現在使用できない
7 (NFCMDLINE_SVC_NODE_CREATE_FAILED)	サービス・ノードを作成しようとしたが失敗 (おそらく DLL の欠落)
8 (NFCMDLINE_SVC_START_FAILED)	ターゲット・システム上の必要なサービスを開始する要求が失敗
9 (NFCMDLINE_SVC_STOP_FAILED)	ターゲット・システム上の必要なサービスを停止する要求が失敗
10 (NFCMDLINE_BAD_COMMAND_LINE)	コマンドラインの構文エラー、または無効な入力
11 (NFCMDLINE_FUNCTION_NOT_SUPPORTED)	要求された操作をターゲット・システム上のサービスはサポートしていない
12 (NFCMDLINE_FILE_NOT_FOUND)	要求された操作は必要なローカル・ファイルが見付からず、失敗
13 (NFCMDLINE_FILE_OUTPUT_ERROR)	要求された操作はローカル・ファイルの入出力エラーのため失敗

以上の戻りコード以外に、CLI ツールがサービス特有のコードを返す場合があります。詳細については、特定の CLI の説明箇所を参照してください。

他のツールによる処理のためのデータ出力

CLI ツールのデータ出力は、別のプログラムから処理されることを意図していません。このため、CLI ツールからの情報出力は、次のような標準に従っています。

1. すべての情報出力は (エラー・メッセージ、ヘルプ・メッセージ、ロゴ・メッセージ、著作権メッセージ、およびその他のユーザー向けの出力と異なる) STDOUT に出力されます。他の出力はすべて STDERR に出力されます。
2. すべての情報出力は、キーワードあるいはキーワードと値の対により構成されています。下に例を示します。

```
MANAGER, ATTRIBNAME=VALUE, TOKEN="string"
```

3. グループで出力される場合、キーワードおよびキーワードと値の対がリストされて表示されます。それらはコンマ、スペース、あるいは行の連続により区切られ、空白行が各レコードの終りを意味します。データは、そのグループごとに中括弧で囲まれ、データのグループがネストされることもあります。下に例を示します。

```
{ TAG=1234, NAME='xxx', MANAGER, MAC=4000123677 }  
{ TAG=1236, NAME='yyy', MAC=4000123678 }
```

この出力は、次のように表示されることもあります。

```
{ TAG=1234  
NAME='xxx'  
MANAGER  
MAC=4000123677 }  
{ TAG=1236  
NAME='yyy'  
MAC=4000123678 }
```

この出力がネストされたグループの一部であれば、次のように表示されます。

```
{ TAG=5555, GROUPNAME='aaa'  
SYSTEMS={ { TAG=1234, NAME='xxx', MANAGER, MAC=4000123677 }  
{ TAG=1236, NAME='yyy', MAC=4000123678 } } }
```

4. キーワードと値の対で表示される場合、その値の形式は次のようになります。

キーワード	対象
0x16 進値	16 進値 (A-F には大文字が使用される)
値	10 進値 (頭に - または + が付いてもよい)

値	キーワード型の値 (たとえば ON、OFF、ENABLED)
"文字列"	文字列のような値 (文字列の中に二重引用符が文字として含まれている場合は、文字列は 2 つの二重引用符で囲まれる)
値.値	浮動小数点 10 進値
日/月/年	日付 (現地表示ではなく、ISO の順序で表示。たとえば、29/1/1966)
時:分:秒	時刻 (常に 24 時間表示。たとえば、18:30:54)
日/月/年:時:分:秒	地方時のタイム・スタンプ (たとえば、29/1/1966:18:30:54)
日/月/年:時:分:秒+オフセット	世界標準時のタイム・スタンプ。オフセットには標準時からの分数 ("タイムゾーン") が入る。標準時よりも遅れている場合、+ の代わりに - を使用する。
{ 他のキーワードまたは値 }	値または属性の集まり

注: *string* フィールドにだけは、非 ASCII 文字や、翻訳された値、その国特有の値が入ることがあります。

- すべてのキーワードは ASCII 英字 (A-Z、a-z、または `_`) で始まり、後ろに ASCII 英数字 (0-9、A-Z、a-z、または `_`) が続きます。
- コンマ、スペース、改行 (CR、LF) およびタブ文字は、“文字列” フィールドの中以外では同等な区切り文字として扱われます。
- 次のキーワード値が、適宜使用されます。
TRUE (真)、FALSE (偽)、ENABLED (使用可)、DISABLED (使用不可)、NULL (空)、NONE (なし)、UNKNOWN (不明)。
- “文字列” フィールドは、CLI ツールが実行されるシステムのローカル・コード・ページで表されます。これらの入力に対応するコード・ページの設定をしておく必要があります。
- すべてのコマンドライン・パラメーターは、次のような構造になっています。
 - コマンドライン・パラメーターごとに、最初にスラッシュ (/) またはダッシュ (-) を付け、大文字、小文字、またはそれらを混合した ASCII キーワードを続けます。値をキーワードと一緒に指定しなければいけない場合、その

キーワードの後ろにコロン、そして値 (必要ならば、二重引用符で囲みます) と続ける必要があります。

例

```
/ADDSYS  
/DELSYS:name  
-REMSYS:"name with spaces"
```

- b. コマンドラインのテキスト値は、CLI ツールのローカル・コード・ページでなければいけません。これらの入力に対応するコード・ページの設定をしておく必要があります。
- c. すべての CLI ツールは、次のようなコマンドラインの値をサポートしています。パラメーターが指定されていない場合、以下に述べる省略時解釈がとられます。

コマンドラインの値

説明

/N: ネットワーク・パス

ターゲット・システムへの Netfinity 形式のネットワーク・パス。

例

```
/N:NETBIOS::USERNAME,  
/N:TCPIP::user.network.com
```

このパラメーターがない場合、ローカル・システムをターゲット・システムとします。

/S: "システム名"

ターゲット・システムに対する任意のシステム名。たとえば、

```
/S:"My system".
```

このパラメーターがない場合、システム名は使用されません。

/?

ツールのコマンドライン・ヘルプの表示 (利用可能な場合)。

- d. 将来の標準オプションとの競合を避けるため、ツール特有のオプションは少なくとも 3 文字のキーワードで定義される必要があります。
 - e. 標準パラメーター (およびツール特有のパラメーター) の順序は問いません。
 - f. サポートされないパラメーターあるいは不適切なパラメーターがあると、戻りコード `NFCMDLINE_BAD_COMMAND_LINE` となり、何の処理も行われません。
 - g. 応答ファイルをサポートする CLI ツールもあります。応答ファイルは、先頭にアンパサンド (&) を付ける必要があります。応答ファイルの内容は、コマンドラインの応答ファイル・オプションの代わりとして処理されず (改行およびタブ文字はスペースに置き換わります)。
10. コマンドライン・ヘルプ、ロゴ、著作権ステートメント、エラー・メッセージ、およびその他、ユーザー向けの出力は `STDOUT` ではなく、`STDERR` に出力されます。

構文図の読み方については、183ページの付録A、『構文図の読み方』を参照してください。

第2章 アラート・マネージャー (NFALRTCL)

以下では、Netfinity アラート・マネージャーのコマンドライン・ツール NFALRTCL について説明します。

NFALRTCL /?

構文

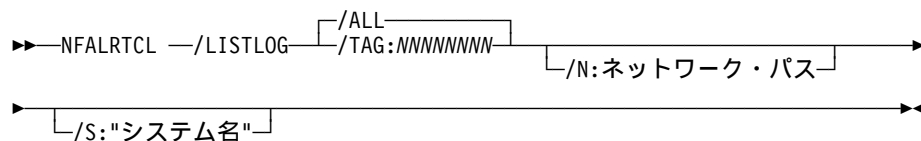
▶▶—NFALRTCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFALRTCL のコマンドライン・ヘルプを表示します。

NFALRTCL /LISTLOG

構文



コマンドの目的

このコマンドは、アラート・ログ中の指定されたアラートをすべてリストします。

パラメーター記述

/ALL	ログのすべてのアラートを選択します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/TAG	指定されたアラートを選択します。

コマンド応答

NFALRTCL /LISTLOG で指定された各アラートの出力は、次のように表示されま
す。

```
{ TAG=0xNNNNNNNN, TEXT="アラート・テキスト", TIME=アラート時刻,  
DATE=アラート日付, SEV=重大度, TYPE=アラート・タイプ,  
APP="アプリケーション ID", ATYPE=アプリケーション・アラート・タイプ  
SENDER=ネットワーク・パス, Pnum="パラメーター", 他}
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- TAG 値は、ログ・エントリーを表す 16 進数の ID。
- TEXT 値は、アラート・テキストの文字列。
- TIME 値は、アラートの時刻属性 (時:分:秒)。
- DATE 値は、アラートの日付属性 (日-月-年)。
- SEV 値は、アラートの重大度 (0 ~ 7)。
- TYPE 値は、標準アラート・タイプ。2 つの連続する 3 文字 (xxxyyy) で表示
され、xxx には、次のアラート・タイプのうちの 1 つが入ります。
 - UNK (不明)
 - SYS (システム)
 - DSK (ディスクまたは DASD)
 - NET (ネットワーク)
 - OS_ (オペレーティング・システム)
 - APP (アプリケーション)
 - DEV (装置)
 - SEC (安全保護)yyy には、次のアラート・クラスのうちの 1 つが入ります。
 - UNK (不明)
 - FLT (障害または故障)
 - ERR (エラー)
 - WRN (警告)
 - INF (情報)
- APP 値は、アラートのアプリケーション ID を表す文字列。
- ATYPE 値は、アプリケーション・アラート・タイプの 16 進数。
- SYSNAME 値は、システム名を表す文字列。
- SENDER 値は、アラートの送信側のパスを表す文字列。
- Pnum 値は、アラート・パラメーター番号を表す文字列。num には 1 から 9
が入ります。

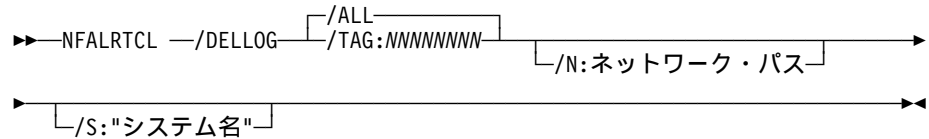
NFALRTCL /LISTLOG には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200 アラート・ログのタグが無効です
- 201 アラート・アクションのタグが無効です
- 202 アラート・ハンドラーが無効です
- 203 一致するアラート・アクションが見つかりません
- 204 無効なアラート・タイプ
- 205 無効なアラート重大度
- 206 無効なアプリケーション・アラート・タイプ
- 207 無効なアプリケーション ID
- 208 既存のアクションによりプロファイルが使用中です
- 209 プロファイルがサポートされていません
- 210 プロファイルのタグまたは名前が無効です

NFALRTCL /DELLOG

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたアラートをアラート・ログからすべて削除します。

パラメーター記述

/ALL	ログのすべてのアラートを選択します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/TAG	指定されたアラートを選択します。

コマンド応答

NFALRTCL /DELLOG はテキスト出力を生成しません。

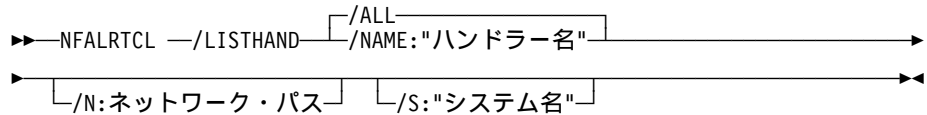
NFALRTCL /DELLOG には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /LISTHAND

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたアラート・ハンドラーをすべてリストします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのアラート・ハンドラーを選択します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/NAME	指定されたアラート・ハンドラーを選択します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFALRTCL /LISTHAND で指定された各アラート・ハンドラーの出力は、次のように表示されます。

```
{ NAME="名前", HANDLER="ハンドラー ID",  
  PARMLAB0="パラメーター・ラベル", PARMLAB1="パラメーター・ラベル", 他 }
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- NAME 値は、アラート・ラベルを表す文字列。
- HANDLER 値は、アラート・ハンドラーのストリング ID。次のようなものがあります。
 - WEBACT/0 は、アラートを TCP/IP Web メールとして設定します。
 - SETERRORCONDITION は、送信システムのエラー状態を設定します。
 - CLERERRORCONDITION は、送信システムのエラー状態を消去します。

- DMICAT/0 は、DMI サービス・レイヤー経由で DMI イベントを送信します。
 - ALERTLOG はアラートをログ・ファイルに追加します。
 - ALERTFORWARD は、ネットワークにアラートを転送します。
 - ALERTPOPOPUP は、アラートを記述したポップアップ・ウィンドウでユーザーに通知します。
 - RUNCOMMAND は、コマンドを実行します。
 - RUNMINCOMMAND は、最小化されたコマンドを実行します。
 - PAGERACT/0 は、数字ページャーを活動化します。
 - PAGERACT/1 は、英数字ページャーに送信します。
 - TCPIPACT/0 は、SNMP アラートを送信します。
 - TCPICACT/1 は、TCP/IP メールを送信します。
 - TCPICACT/2 は、マップされた SNMP アラートを送信します。
 - その他の場合、大文字の DLL 名にスラッシュ (/) と エントリー・ポイント番号 (アラート・ハンドラー番号) を続けます。
- PARMLAB# 値は、アラート・パラメーター (0 ~ 3) を表す文字列ラベル。

NFALRTCL /LISTHAND には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	アラート・ログのタグが無効です
201	アラート・アクションのタグが無効です
202	アラート・ハンドラーが無効です
203	一致するアラート・アクションが見付かりません
204	無効なアラート・タイプ
205	無効なアラート重大度
206	無効なアプリケーション・アラート・タイプ
207	無効なアプリケーション ID
208	既存のアクションによりプロファイルが使用中です
209	プロファイルがサポートされていません
210	プロファイルのタグまたは名前が無効です

NFALRTCL /LISTACT

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたアラート・アクションをすべてリストします。

パラメーター記述

- /ALL** 全ての構成されているアクションを選択します。
- /HASAPP** 選択するアクションに一致するアプリケーション ID を指定します。すべての指定された ID に一致するアクションだけが選択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASAPP:ANY と指定します。

- /HASATYPE** 選択するアクションに一致するアプリケーション・アラート・タイプを 16 進数で指定します。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選択されます。いずれかのアプリケーション・アラート・タイプに一致するアクションを選択する場合、
/HASATYPE:ANY コマンドで指定できます。
- /HASHAND** 指定するアクションのハンドラー ID を指定します。
- /HASPARM#** 選択するアクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) を指定します。
- /HASPROF** 選択するアクションが使用するプロファイル名を指定します。すべての指定されたプロファイル名を含むアクションだけが選択されません。
- /HASPROFTAG**
選択するアクションの 16 進数のプロファイル・タグを指定します。すべての指定されたプロファイル・タグを含むアクションだけが選択されます。
- /HASSENDER**
選択するアクションに一致する送信パスを指定します。すべての指定された送信パスに一致するアクションだけが指定されます。いずれかの送信側に一致するアクションを選択する場合、
/HASSENDER :ANY コマンドで指定します。
- /HASSEV** 選択するアクションに一致するアラート重大度を指定します。すべての指定された重大度に一致するアクションだけが選択されます。いずれかの重大度に一致するアクションを選択する場合、
/HASSEV:ANY コマンドで指定します。
- /HASTYPE** 選択するアクションに一致する標準アラート・タイプを指定します。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASTYPE:ANY と指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /TAG** 特定のアクションの 16 進数の ID を指定します。

コマンド応答

NFALRTCL /LISTACT で指定された各アラート・アクションの出力は、次のように表示されます。

```
{ TAG=0xNNNNNNNN, NAME="名前", HANDLER="ハンドラー ID",  
  PARM0="パラメーター値", PARM1="パラメーター値",  
  PROFTAG={0xNNNNNNNN, ...}, PROF={"プロファイル名", ...},  
  TYPES={アラート・タイプ, ...}, ATYPES={アプリケーション・アラート・タイプ, ...},  
  APPS={アプリケーション ID, ...}, SEVS={重大度, ...},  
  SENDERS={"送信元", ... }, 他}
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- TAG 値は、アクションを表す固有な ID。
- NAME 値は、(プロファイル・アクションの) 文字列ラベル。
- HANDLER 値は、アラート・ハンドラーのストリング ID。
- PARM# 値は、パラメーター番号 (0 ~ 3) を表す文字列の値。
- PROFTAG 値は、アクション (使用される場合) と一致させるために使用されるプロファイルを表す 16 進数のタグ ID を大括弧で囲んだリスト。
- PROF 値は、アクション (使用される場合) と一致させるために使用されるプロファイル名の文字列を大括弧で囲んだリスト。
- TYPES 値は、標準アラート・タイプを大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- APPS 値は、アプリケーション ID の文字列を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- ATYPES 値は、アプリケーション・アラート・タイプを表す 16 進数を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- SEVS 値は、アラート重大度を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- SENDERS 値は、送信パスの文字列を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。

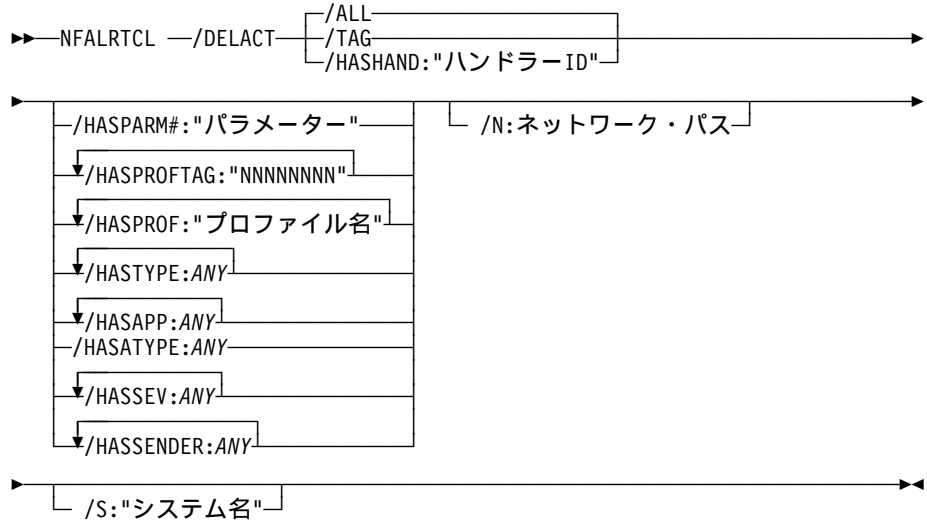
NFALRTCL /LISTACT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** アラート・ログのタグが無効です
- 201** アラート・アクションのタグが無効です
- 202** アラート・ハンドラーが無効です
- 203** 一致するアラート・アクションが見つかりません
- 204** 無効なアラート・タイプ
- 205** 無効なアラート重大度
- 206** 無効なアプリケーション・アラート・タイプ
- 207** 無効なアプリケーション ID
- 208** 既存のアクションによりプロファイルが使用中です
- 209** プロファイルがサポートされていません
- 210** プロファイルのタグまたは名前が無効です

NFALRTCL /DELECT

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたアラート・アクションをすべて削除します。

パラメーター記述

- /ALL** すべての構成されているアクションを選択します。
- /HASAPP** 選択するアクションに一致するアプリケーション ID を指定します。すべての指定された ID に一致するアクションだけが選択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASAPP:ANY と指定します。

- /HASATYPE** 選択するアクションに一致するアプリケーション・アラート・タイプを 16 進数で指定します。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選択されます。いずれかのアプリケーション・アラート・タイプに一致するアクションを選択する場合、
/HASATYPE:ANY コマンドで指定できます。
- /HASHAND** 選択するアクションのハンドラー ID を指定します。
- /HASPARM#** 選択するアクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) を指定します。
- /HASPROF** 選択するアクションが使用するプロファイル名を指定します。すべての指定されたプロファイル名を含むアクションだけが選択されません。
- /HASPROFTAG**
選択するアクションの 16 進数のプロファイル・タグを指定します。すべての指定されたプロファイル・タグを含むアクションだけが選択されます。
- /HASSENDER**
選択するアクションに一致する送信パスを指定します。すべての指定された送信パスに一致するアクションだけが指定できます。いずれかの送信側に一致するアクションを選択する場合、
/HASSENDER:ANY コマンドで指定します。
- /HASSEV** 選択するアクションに一致するアラート重大度を指定します。すべての指定された重大度に一致するアクションだけが選択されます。いずれかの重大度に一致するアクションを選択する場合、
/HASSEV:ANY コマンドで指定します。
- /HASTYPE** 選択するアクションに一致する標準アラート・タイプを指定します。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASTYPE:ANY と指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /TAG** 特定のアクションの 16 進数の ID を指定します。

コマンド応答

NFALRTCL /DELECT で指定された各アクションの出力は、次のように表示されます。

TAG=0xNNNNNNNN

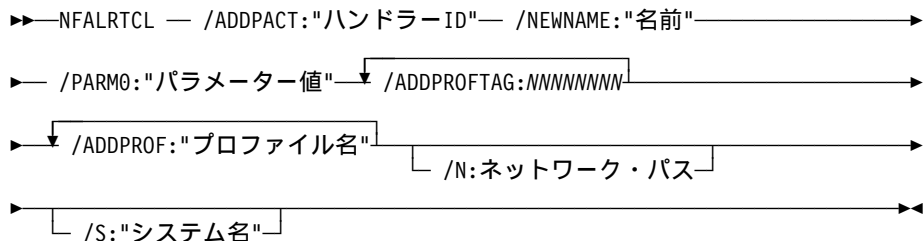
この TAG 値は、削除されたアクションを表す固有な ID です。

NFALRTCL /DELECT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /ADDPACT



コマンドの目的

このコマンドは、プロファイルに基づいたアラート・アクションを追加します。

パラメーター記述

- /ADDPROF** アクションのプロファイル・リストに追加するプロファイル名を指定します。
- /ADDPROFTAG** アクションのプロファイル・リストに追加するプロファイルのタグを 16 進数で指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /NEWNAME** プロファイルに基づいたアクションの文字列ラベルを指定します。
- /PARMO** アクションのパラメーター番号を指定します。この値には、0 ~ 3 が指定できます。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

出力は、次のように表示されます。

```
TAG=0xNNNNNNNN
```

この TAG 値は、新たなアクションを表す固有な ID です。

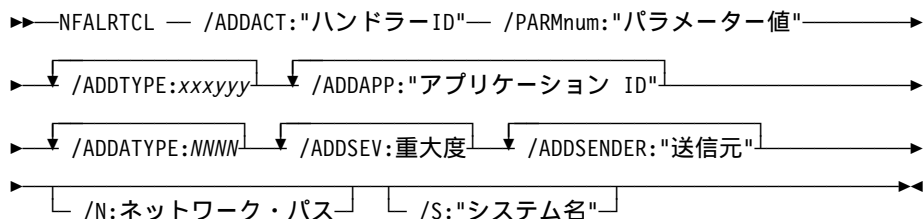
NFALRTCL /ADDPACT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見付かりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /ADDACT

構文



コマンドの目的

このコマンドは、照合規則に基づいたアラート・アクションを追加します。

パラメーター記述

- /ADDAPP** アプリケーション ID 文字列の突き合わせリストへ追加するアプリケーション ID の文字列を指定します。
- /ADDDATATYPE** 突き合わせリストに追加するアプリケーション・アラート・タイプを 16進で指定します。
- /ADDDTYPE** アラート・タイプの突き合わせリストに追加する標準アラート・タイプを指定します。
- /ADDSEV** 突き合わせリストに追加するアラート重大度 (0 ~ 7) を指定します。
- /ADDSSENDER** 突き合わせリストに追加する送信パスの文字列を指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /PARMnum** アクションのパラメーター番号 *num* (0 ~ 3) を指定します。各アラート・アクションには 0 ~ 3 のパラメーターがあります。最初が parm0、2 番目が parm1 というようになります。各パラメーターの意味は、指定されたアクションに特有な意味です。

/S ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

出力は、次のように表示されます。

TAG=0xNNNNNNNN

この TAG 値は、新たなアクションを表す固有な ID です。

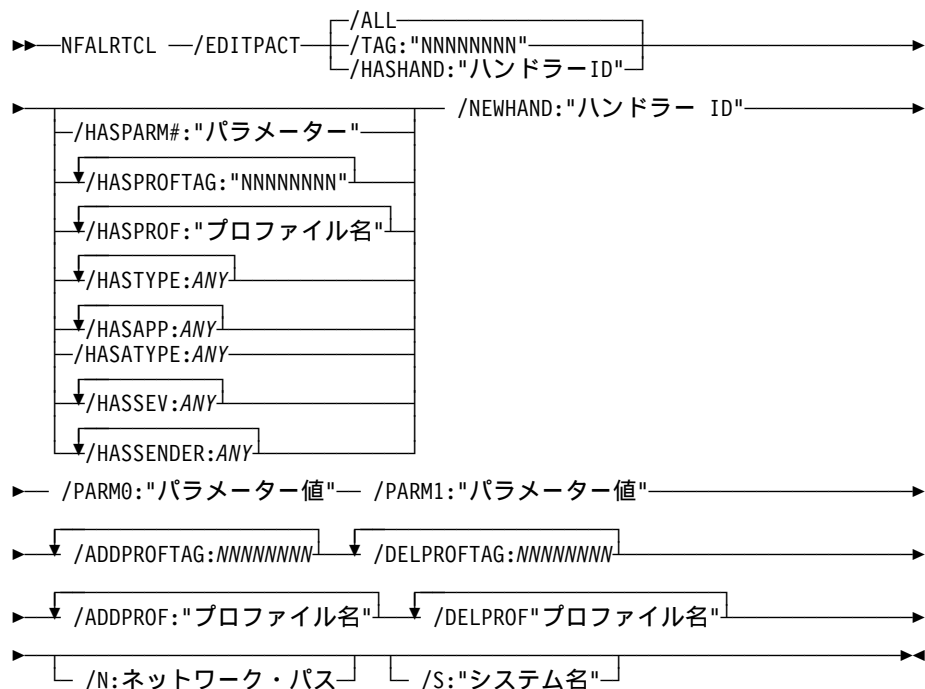
NFALRTCL /ADDACT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /EDITPACT

構文



コマンドの目的

このコマンドは、与えられたタグを持つアラート・アクション・プロファイルを編集します。

パラメーター記述

- /ALL** 全ての構成されているアクションを選択します。
- /ADDPROF** アクションのプロファイル・リストに追加するプロファイル名を文字列で指定します。
- /ADDPROFTAG** アクションのプロファイル・リストに追加するプロファイルの 16 進のタグを指定します。
- /DELPROF** アクションのプロファイル・リストから取り除くプロファイル名を文字列で指定します。
- /DELPROFTAG** アクションのプロファイル・リストから取り除くプロファイルのタグを 16 進数で指定します。
- /HASAPP** 選択するアクションに一致するアプリケーション ID を指定します。すべての指定された ID に一致するアクションだけが選択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASAPP:ANY と指定します。
- /HASATYPE** 選択するアクションに一致するアプリケーション・アラート・タイプを 16 進数で指定します。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選択されます。いずれかのアプリケーション・アラート・タイプに一致するアクションを選択する場合、/HASATYPE:ANY コマンドで指定できます。
- /HASHAND** 選択するアクションのハンドラー ID を指定します。
- /HASPARAM#** 選択するアクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) を指定します。
- /HASPROF** 値は、選択するアクションが使用するプロファイル名です。すべての指定されたプロファイル名を含むアクションだけが選択されます。
- /HASPROFTAG** 選択するアクションが持つ 16 進数のプロファイル・タグを指定します。すべての指定されたプロファイル・タグを含むアクションだけが選択されます。

/HASSENDER

選択するアクションに一致する送信パスを指定します。すべての指定された送信パスに一致するアクションだけが指定できます。いずれかの送信側に一致するアクションを選択する場合、
/HASSENDER:ANY コマンドで指定します。

/HASSEV

選択するアクションに一致するアラート重大度を指定します。すべての指定された重大度に一致するアクションだけが選択されます。いずれかの重大度に一致するアクションを選択する場合、
/HASSEV&colo n.ANY コマンドで指定します。

/HASTYPE

選択するアクションに一致する標準アラート・タイプを指定します。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASTYPE:ANY と指定します。

/NEWHAND アクションを表す新たなハンドラー ID を指定します。

/PARM0 アクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) に新たな値を指定します。

/PARM1 アクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) に新たな値を指定します。

/N ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。

/S ターゲット・システムのシステム名を指定します。

/TAG 特定のアクションの 16 進数の ID を指定します。

コマンド応答

指定された各アクションの出力は、次のように表示されます。

TAG=0xNNNNNNNN

この TAG は、編集されたアクションを表す固有な ID です。

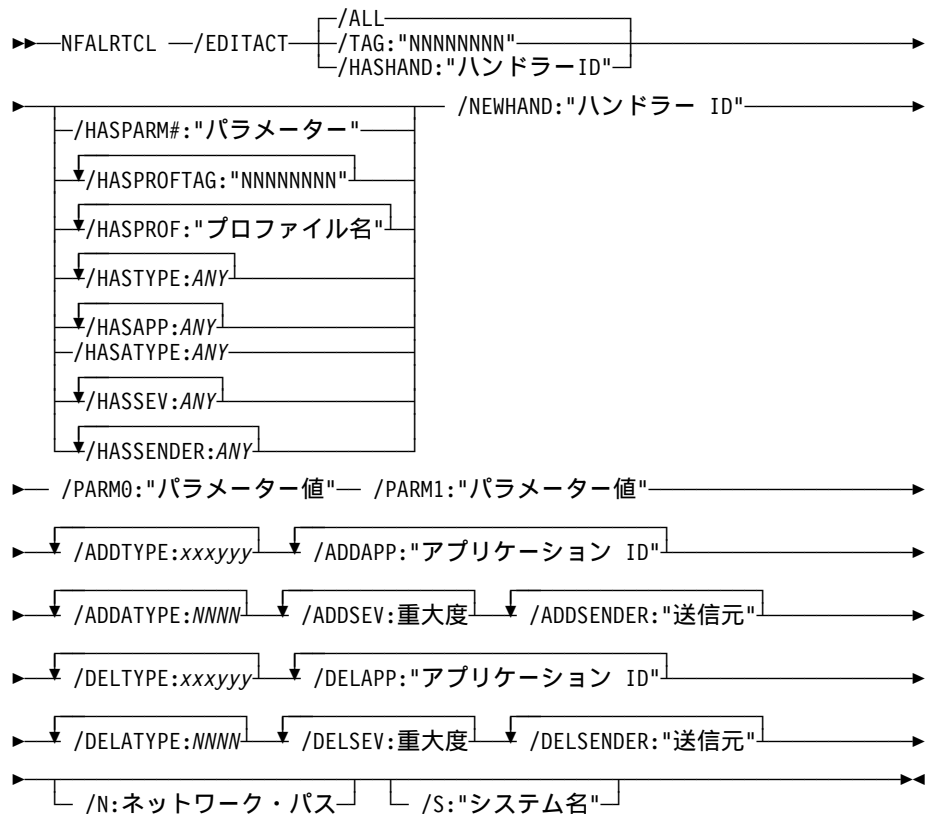
NFALRTCL /EDITPACT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /EDITACT

構文



コマンドの目的

このコマンドは、与えられたタグを持つアラート・アクションを編集します。

パラメーター記述

- /ADDDTYPE** アラート・タイプの突き合わせリストに追加する標準アラート・タイプを指定します。
- /ADDAPP** アプリケーション ID の突き合わせリストへ追加するアプリケーションID の文字列を指定します。
- /ADDATYPE** 突き合わせリストに追加するアプリケーション・アラート・タイプを 16 進で指定します。
- /ADDSEV** 突き合わせリストに追加するアラート重大度 (0 ~ 7) を指定します。
- /ADDSENDER**
突き合わせリストに追加する送信パスの文字列を指定します。
- /ALL** すべての構成されているアクションを選択します。
- /DELTYPE** アラート・タイプの突き合わせリストから取り除く標準アラート・タイプを指定します。
- /DELAPP** アプリケーション ID の突き合わせリストから取り除くアプリケーション ID の文字列を指定します。
- /DELATYPE** 突き合わせリストから取り除くアプリケーション・アラート・タイプを 16進で指定します。
- /DELSEV** 突き合わせリストから取り除くアラート重大度 (0 ~ 7) を指定します。
- /DELSENDER**
突き合わせリストから取り除く送信パスの文字列を指定します。
- /HASAPP** 選択するアクションに一致するアプリケーション ID を指定します。すべての指定された ID に一致するアクションだけが選択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASAPP:ANY と指定します。

- /HASATYPE** 選択するアクションに一致するアプリケーション・アラート・タイプを 16 進数で指定します。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選択されます。いずれかのアプリケーション・アラート・タイプに一致するアクションを選択する場合、
/HASATYPE:ANY コマンドで指定できます。
- /HASHAND** 選択するアクションのハンドラー ID を指定します。
- /HASPARM#** 選択するアクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) を指定します。
- /HASPROF** 選択するアクションが使用するプロファイル名を指定します。すべての指定されたプロファイル名を含むアクションだけが選択され
ます。
- /HASPROFTAG**
選択するアクションが持つ 16 進数のプロファイル・タグを指定し
ます。すべての指定されたプロファイル・タグを含むアクション
だけが選択されます。
- /HASSENDER**
選択するアクションに一致する送信パスを指定します。すべての指
定された送信パスに一致するアクションだけが指定できます。い
ずれかの送信側に一致するアクションを選択する場合、
/HASSENDER:ANY コマンドで指定します。
- /HASSEV** 選択するアクションに一致するアラート重大度を指定します。すべ
ての指定された重大度に一致するアクションだけが選択されま
す。
いずれかの重大度に一致するアクションを選択する場合、
/HASSEV:ANY コマンドで指定します。
- /HASTYPE** 選択するアクションに一致する標準アラート・タイプを指定しま
す。すべての指定されたタイプに一致するアクションだけが選
択されます。いずれかのタイプ (つまり、いずれかのアラート・
タイプ) に一致するアクションを選択する場合、/HASTYPE:ANY と指定
します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /NEWHAND** アクションを表す新たなハンドラー ID を指定します。
- /PARM0** アクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) に新たな値を指定します。
- /PARM1** アクションのパラメーター番号 (0 ~ 3) に新たな値を指定します。

- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /TAG** 特定のアクションの 16 進数の ID を指定します。

コマンド応答

指定された各アクションの出力は、次のように表示されます。

TAG=0xNNNNNNNN

この TAG は、編集されたアクションを表す固有な ID です。

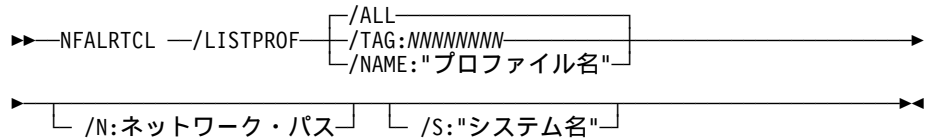
NFALRTCL /EDITACT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /LISTPROF

構文



コマンドの目的

このコマンドは、すべての指定されたアラート・プロファイルをリストします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのプロファイルを選択します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/NAME	選択するプロファイル名を指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/TAG	選択するプロファイルのタグを指定します。

コマンド応答

指定された各アラート・プロファイルの出力は、次のように表示されます。

```
{ TAG=0xNNNNNNNN, NAME="プロファイル名", PROFTAG={ 0xNNNNNNNN, ... }  
  TYPES={ アラート・タイプ, ... }, APPS+{"アプリケーション ID", ... },  
  ATYPES+{ アプリケーション・アラート・タイプ, ... }, SEVS= { 重大度, ... },  
  SENDERS={"送信元", ... }, 他 }
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- TAG は、プロファイルを表す固有な ID。
- NAME 値は、アラート・プロファイルのストリング ID。
- PROFTAG 値は、そのプロファイルを定義するプロファイルを表す 16 進数のタグ ID を大括弧でリストします。

- TYPES 値は、標準アラート・タイプを大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。この値は、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- APPS 値は、アプリケーション ID の文字列を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- ATYPES 値は、アプリケーション・アラート・タイプを表す 16 進数を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- SEVS 値は、アラート重大度を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。
- SENDERS 値は、送信パスの文字列を大括弧で囲んだリスト。空のリストは ANY を意味します。これは、プロファイルがアクションに使用されない場合にだけ表示されます。

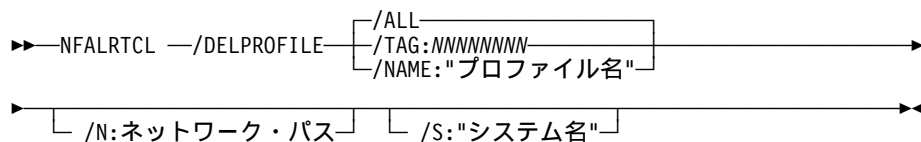
NFALRTCL /LISTPROF には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	アラート・ログのタグが無効です
201	アラート・アクションのタグが無効です
202	アラート・ハンドラーが無効です
203	一致するアラート・アクションが見つかりません
204	無効なアラート・タイプ
205	無効なアラート重大度
206	無効なアプリケーション・アラート・タイプ
207	無効なアプリケーション ID
208	既存のアクションによりプロファイルが使用中です
209	プロファイルがサポートされていません
210	プロファイルのタグまたは名前が無効です

NFALRTCL /DELPROFILE

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたアラート・プロファイルをすべて削除します。

パラメーター記述

/ALL	すべてのプロファイルを選択します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/NAME	選択するプロファイル名を指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/TAG	選択するプロファイルのタグを指定します。

コマンド応答

指定された各アラート・プロファイルの出力は、次のように表示されます。

```
TAG=0xNNNNNNNN
```

この TAG は、削除されたアクションを表す固有な ID です。

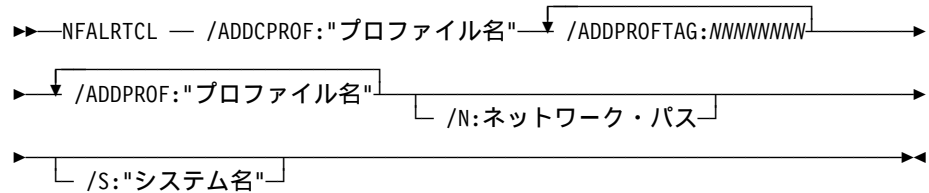
NFALRTCL /DELPROFILE には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /ADDCPROF

構文



コマンドの目的

このコマンドは、合成プロファイルに基づいたプロファイルを追加します。

/ADDCPROF アクションのプロファイル・リストに追加するプロファイル名を指定します。

/ADDCPROFTAG アクションのプロファイル・リストに追加するプロファイルのタグを 16 進数で指定します。

/N ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。

/S ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

出力は次のようになります。

```
TAG=0xNNNNNNNN
```

この TAG は、新たなアクションに割り当てられた固有な ID です。

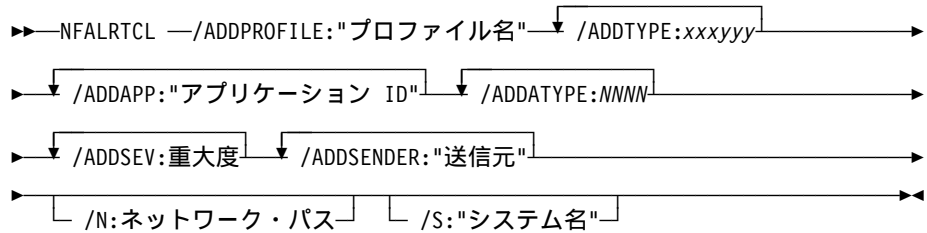
NFALRTCL /ADDCPROF には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /ADDPFILE

構文



コマンドの目的

このコマンドは、突き合わせ規則に基づいたプロファイルを追加します。

パラメーター記述

- /ADDAPP** アプリケーション ID の突き合わせリストへ追加するアプリケーション IDの文字列を指定します。
- /ADDDATYPE** 突き合わせリストに追加するアプリケーション・アラート・タイプを 16進数で指定します。
- /ADDSENDER** 突き合わせリストに追加する送信バスの文字列を指定します。
- /ADDSEV** 突き合わせリストに追加するアラート重大度 (0 ~ 7) を指定します。
- /ADDDTYPE** アラート・タイプの突き合わせリストに追加する標準アラート・タイプを指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

出力は次のようになります。

```
TAG=0xNNNNNNNN
```

この TAG は、新たなアクションに割り当てられた固有な ID です。

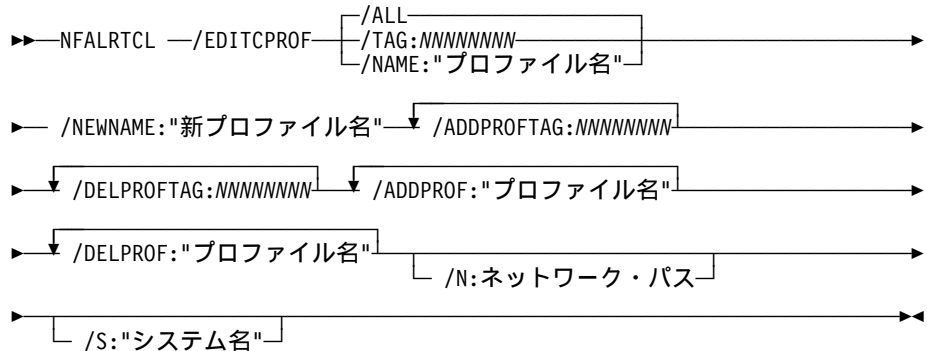
NFALRTCL /ADDPFILE には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /EDITCPROF

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された合成プロフィールを編集します。

パラメーター記述

- /ADDPROF** アクションのプロファイル・リストに追加するプロフィール名を指定します。
- /ADDPROFTAG** アクションのプロファイル・リストに追加するプロフィールのタグを 16 進数で指定します。
- /ALL** すべてのプロフィールを選択します。
- /DELPROF** アクションのプロファイル・リストから取り除くプロフィール名を文字列で指定します。
- /DELPROFTAG** アクションのプロファイル・リストから取り除くプロフィールのタグを 16 進数で指定します。
- /NAME** 選択するプロフィール名を指定します。

- /NEWNAME** 新たにプロファイル名を指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /TAG** 選択するプロファイルのタグを指定します。

コマンド応答

出力は次のようになります。

```
TAG=0xNNNNNNNN
```

この TAG は、編集されたアクションを表す固有な ID です。

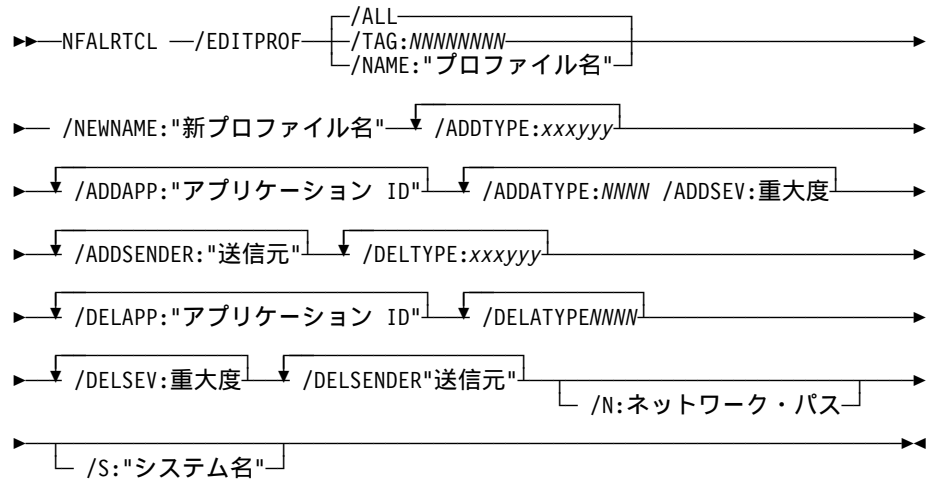
NFALRTCL /EDITCPROF には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見つかりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

NFALRTCL /EDITPROF

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたプロファイルを編集します。

パラメーター記述

/ADDAPP	アプリケーション ID の突き合わせリストへ追加するアプリケーション ID の文字列を指定します。
/ADDATYPE	突き合わせリストに追加するアプリケーション・アラート・タイプを 16 進で指定します。
/ADDSENDER	突き合わせリストに追加する送信パスの文字列を指定します。
/ADDSEV	突き合わせリストに追加するアラート重大度 (0 ~ 7) を指定します。
/ADDTYPE	アラート・タイプの突き合わせリストに追加する標準アラート・タイプを指定します。
/ALL	すべてのプロファイルを選択します。
/DELAPP	アプリケーション ID の突き合わせリストから取り除くアプリケーション ID の文字列を指定します。
/DELATYPE	突き合わせリストから取り除くアプリケーション・アラート・タイプを 16 進数で指定します。
/DELSENDER	突き合わせリストから取り除く送信パスの文字列を指定します。
/DELSEV	突き合わせリストから取り除くアラート重大度 (0 ~ 7) を指定します。
/DELTYPE	アラート・タイプの突き合わせリストから取り除く標準アラート・タイプを指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/NAME	選択するプロファイル名を指定します。
/NEWNAME	新たにプロファイル名を指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/TAG	選択するプロファイルのタグを指定します。

コマンド応答

出力は次のようになります。

```
TAG=0xNNNNNNNN
```

この TAG は、編集されたアクションを表す固有な ID です。

NFALRTCL /EDITPROF には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|-------------------------|
| 200 | アラート・ログのタグが無効です |
| 201 | アラート・アクションのタグが無効です |
| 202 | アラート・ハンドラーが無効です |
| 203 | 一致するアラート・アクションが見付かりません |
| 204 | 無効なアラート・タイプ |
| 205 | 無効なアラート重大度 |
| 206 | 無効なアプリケーション・アラート・タイプ |
| 207 | 無効なアプリケーション ID |
| 208 | 既存のアクションによりプロファイルが使用中です |
| 209 | プロファイルがサポートされていません |
| 210 | プロファイルのタグまたは名前が無効です |

第3章 クリティカル・ファイル・モニター CLI (NFCRTFCL)

以下では、Netfinity クリティカル・ファイル・モニターのコマンドライン・ツール NFCRTFCL について説明します。

NFCRTFCL /?

構文

▶▶—NFCRTFCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFCRTFCL のコマンドライン・ヘルプを表示します。

パラメーター記述

/? コマンドライン・ヘルプを表示します。

NFCRTFCL /LIST

構文

```
▶▶—NFCRTFCL —/LISTnfalrtcl /listlog —————▶  
└─ /N:ネットワーク・パス ─┘  
▶ ─────────────────────────────────────────────────────────▶  
└─ /S:"システム名" ─┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、モニターされているファイルの情報をリストします。

パラメーター記述

/LIST	モニターされているすべてのファイル情報をリストします。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFCRTFCL /LIST で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ FILE="完全修飾パス", SEV=重大度, TYPE=
ファイル・タイプ, NTFY=enabled/disabled
LOCALNTFY=enabled/disabled}.
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- FILE 値は、ファイルへの完全修飾パスの文字列。
- SEV 値は、生成されるアラートの重大度 (0 ~ 7)。
- TYPE 値は、モニターされているファイルのタイプ。値は SYSTEM_FILE または STANDARD_FILE のどちらかです。
- NTFY 値は、管理システムに対する通知状態 (ENABLED または DISABLED)。
- LOCALNTFY 値は、ローカル・システムに対する通知状態 (ENABLED または DISABLED)。

NFCRTFCL /LIST には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	完全修飾パスがありません
201	完全修飾パスが無効です
202	ファイル名 (パスなし) がありません
203	ファイル名 (パスなし) が無効です
204	重大度がありません
205	重大度が無効です
206	重大度が範囲外です

NFCRTFCL /DELSYS

構文

▶—NFCRTFCL —/DELSYS:パスを含まないファイル名————▶
▶┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐▶

コマンドの目的

このコマンドは、モニターされているファイルのリストからシステム・ファイルを削除します。

パラメーター記述

/DELSYS	モニターされているファイル・リストから削除するシステム・ファイルの名前を指定します。ファイル名のみを指定します。パスは記述しないでください。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFCRTFCL /DELSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
202	ファイル名 (パスなし) がありません
203	ファイル名 (パスなし) が無効です
204	重大度がありません
205	重大度が無効です
206	重大度が範囲外です

NFCRTFCL /DELSTD

構文

```
▶▶—NFCRTFCL —/DELSTD:完全修飾パス—└─┬─▶
                                     └─┬─▶
▶└─┬─▶ /S:"システム名" └─▶
  └─┬─▶ /N:ネットワーク・パス └─▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、モニターされているファイルのリストから一般ファイルを削除します。

パラメーター記述

/DELSTD	モニターされているファイル・リストから削除する一般ファイルを指定します。ファイルへの完全修飾パスを指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFCRTFCL /DELSTD には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	完全修飾パスがありません
201	完全修飾パスが無効です
202	ファイル名 (パスなし) がありません
203	ファイル名 (パスなし) が無効です
204	重大度がありません
205	重大度が無効です
206	重大度が範囲外です

NFCRTFCL /SETSYS

構文

```
▶▶—NFCRTFCL —/SETSYS:パスを含まないファイル名—/SEV:重大度————▶▶
▶▶┌ /NTFY:enabled/disabled ─┐ ┌ /LOCALNTFY:enabled/disabled ─┐
▶▶└──────────────────────────┘ └──────────────────────────┘
▶▶┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐
▶▶└──────────────────────────┘ └──────────────────────────┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、新たにモニターされるシステム・ファイルを追加したり、すでにモニターされているシステム・ファイルのアラート重大度を変更します。

パラメーター記述

/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/NTFY	管理システムに対する通知状態 (ENABLED または DISABLED) を指定します。
/LOCALNTFY	ローカル・システムへの通知状態 (ENABLED または DISABLED) を指定します。
/SETSYS	モニター・リストに追加するあるいはコードを変更する、ファイル名を指定します。ファイル名のみを指定します。パスは記述しないでください。
/SEV	生成されるアラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します。

コマンド応答

NFCRTFCL /SETSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
202	ファイル名 (パスなし) がありません
203	ファイル名 (パスなし) が無効です
204	重大度がありません
205	重大度が無効です
206	重大度が範囲外です

NFCRTFCL /SETSTD

構文

```
▶—NFCRTFCL —/SETSTD:完全修飾パス—/SEV:重大度————▶
▶┌ /NTFY:enabled/disabled ─┐ ┌ /LOCALNTFY:enabled/disabled ─┐▶
▶┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、新たにモニターされる一般ファイルを追加したり、すでにモニターされている一般ファイルのアラート重大度を変更します。

パラメーター記述

/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/NTFY	管理システムに対する通知状態 (ENABLED または DISABLED) を指定します。
/LOCALNTFY	ローカル・システムへの通知状態 (ENABLED または DISABLED) を指定します。
/SETSTD	モニター・リストに追加するファイル、あるいはコードを変更するファイルの名前と完全修飾パスを指定します。
/SEV	生成されるアラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します。

コマンド応答

NFCRTFCL /SETSTD には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
202	ファイル名 (パスなし) がありません
203	ファイル名 (パスなし) が無効です
204	重大度がありません
205	重大度が無効です
206	重大度が範囲外です

第4章 プロセス・マネージャー CLI (NFPROCCL)

以下では、Netfinity プロセス・マネージャーのコマンドライン・ツール NFPROCCL について説明します。

NFPROCCL /?

構文

▶▶—NFPROCCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFPROCCL コマンドのヘルプを表示します。

NFPROCCL /GETPROC

構文

```
▶—NFPROCCL — /GETPROC —————▶  
└─ /N:ネットワーク・パス ─┘  
▶ ───────────────────────────────────▶  
└─ /S:"システム名" ─┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、現在のプロセス情報をリストします。

パラメーター記述

- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFPROCCL /GETPROC で指定された各アクティブ・プロセスの出力は、次のように表示されます。

```
{ PROCESS_ID=0xNNNNNNNN, EXENAME="プロセス名", CMDLINE="コマンドライン",  
  THREADS=スレッド数, FILES=ファイル数, PARENT_ID=0xNNNNNNNN,  
  SESSION_ID=0xNNNNNNNN, USER_ID="ユーザー ID", PRIORITY=優先順位,  
  START_TIME=日時, EXEVER="バージョン", EXEDATE=日付,  
  EXEDESC="記述" , 他 }
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- PROCESS_ID 値は、プロセス ID を表す 16 進数。
- EXENAME 値は、プロセス名の文字列。
- CMDLINE 値は、オペレーティング・システム特有のコマンドライン文字列。
- THREADS 値は、オペレーティング・システム固有の整数のスレッド数。
- FILES 値は、オペレーティング・システム固有の整数のオープン・ファイル数。
- PARENT_ID 値は、親プロセス ID を表す 16 進数。

- SESSION_ID 値は、オペレーティング・システム固有の、セッション ID を表す 16 進数。
- USER_ID 値は、オペレーティング・システム固有のユーザー ID の文字列。
- PRIORITY 値は、オペレーティング・システム固有の、次のようなプロセス優先順位を指定するキーワード。
 - IDLE
 - LOW
 - BACKGROUND
 - NORMAL
 - FOREGROUND
 - HIGH
 - SERVER
 - TIMECRIT
 - REALTIME
- START_TIME 値は、オペレーティング・システム固有の、プロセス開始時刻のタイムスタンプ。
- EXEVER 値は、オペレーティング・システム固有の実行可能ファイルのバージョンを表す文字列。
- EXEDATE 値は、オペレーティング・システム固有の、実行可能ファイルのタイムスタンプ。
- EXEDESC 値は、オペレーティング・システム固有の実行可能ファイルの記述文字列。

NFPROCCL /GETPROC には、次のようなツール固有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200 プロセス・モニターのタグまたは名前が無効です

201 コマンドの実行が失敗しました

NFPROCCL /RUNCMD

構文

```
▶—NFPROCCL — /RUNCMD:"command 文字列" —▶  
└─ /N:ネットワーク・パス ─┘  
▶ └─ /S:"システム名" ─▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、要求されたコマンドを実行します。

パラメーター記述

/RUNCMD	ターゲット・システムで実行するコマンドを指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

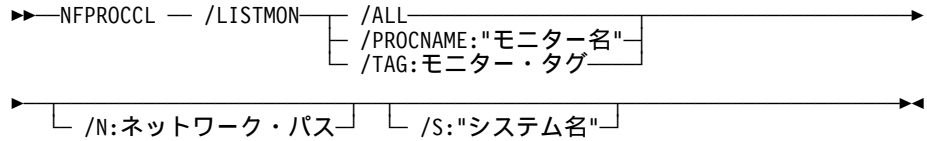
NFPROCCL /RUNCMD には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	プロセス・モニターのタグまたは名前が無効です
201	コマンドの実行が失敗しました

NFPROCCL /LISTMON

構文



コマンドの目的

このコマンドは、プロセス・モニターをリストします。

パラメーター記述

- /ALL** すべてのプロセス・モニターを選択します。
- /PROCNAME** 指定された名前のプロセス・モニターを選択します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /TAG** 与えられたタグを持つプロセス・モニターを選択します。

コマンド応答

NFPROCCL /LISTMON で指定された、選択された各プロセス・モニターの出力は、次のように表示されます。

```
{ TAG=0xNNNNNNNN, PROCNAME="プロセス名", SEV=重大度, ONSTART=enable,
ONSTOP=enable, ONNORUN=時間, NOTIFY=("パス",...), 他 }
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- TAG 値は、16 進数の固有な ID。
- PROCNAME 値は、プロセス名の文字列。
- SEV 値はアラートの重大度レベルで 0 ~ 7 の整数。
- ONSTART 値は、enabled または disabled。
- ONSTOP 値は、enabled または disabled。
- ONNORUN 値は、分を表す整数の意味 または disabled。
- NOTIFY 値は、通知パスを表す文字列のリストを括弧でくくったものです。
Local は、ローカル・システムを意味します。

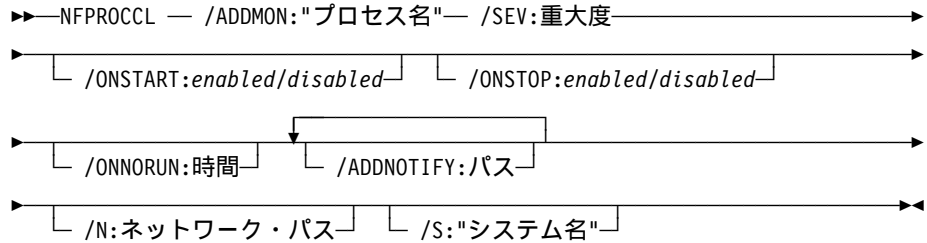
NFPROCCL /LISTMON には、次のようなツール特有のコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|------------------------|
| 200 | プロセス・モニターのタグまたは名前が無効です |
| 201 | コマンドの実行が失敗しました |

NFPROCCL /ADDMON

構文



コマンドの目的

このコマンドは、新たにプロセス・アラートを追加します。

パラメーター記述

- /ADDNOTIFY** 任意指定で、アラートを通知するためのネットワーク・パスを指定します。*Local* は、ローカル・システムを意味します。*Here* は、マネージャー・プログラムのシステム (NFPROCCL にとってローカルである) の別名です。複数の指定も可能です。
- /ONNORUN** 省略可能パラメーターで、分を表す整数 または *disabled* のどちらかを指定します。省略時値は、*disabled* です。
- /ONSTART** 省略可能パラメーターで、*enabled* または *disabled* のどちらかを指定します。省略時値は、*disabled* です。
- /ONSTOP** 省略可能パラメーターで、*enabled* または *disabled* のどちらかを指定します。省略時値は、*disabled* です。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /SEV** 生成されるアラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します。

コマンド応答

NFPROCCL /ADDMON で指定された新たなプロセス・アラートの出力は、次のように表示されます。

```
TAG=0xNNNNNNNN
```

この TAG は、新たなプロセス・モニターを表す固有のタグです。

NFPROCCL /ADDMON には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

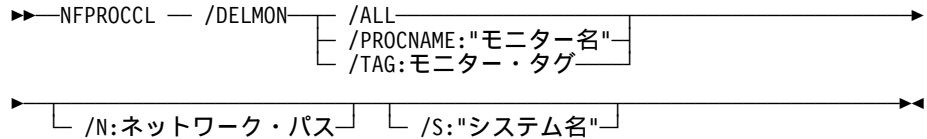
戻りコード 説明

200 プロセス・モニターのタグまたは名前が無効です

201 コマンドの実行が失敗しました

NFPROCCL /DELMON

構文



コマンドの目的

このコマンドは、すべての指定されたプロセス・モニターを削除します。

パラメーター記述

- /ALL** すべてのプロセス・モニターを選択します。
- /PROCNAME** 指定された名前のプロセス・モニターを選択します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /TAG** 与えられたタグを持つプロセス・モニターを選択します。

コマンド応答

NFPROCCL /DELMON で指定されたモニターの出力は、次のように表示されません。

```
TAG=0xNNNNNNNNN
```

この TAG は、削除されたプロセス・モニターを表す固有のタグです。

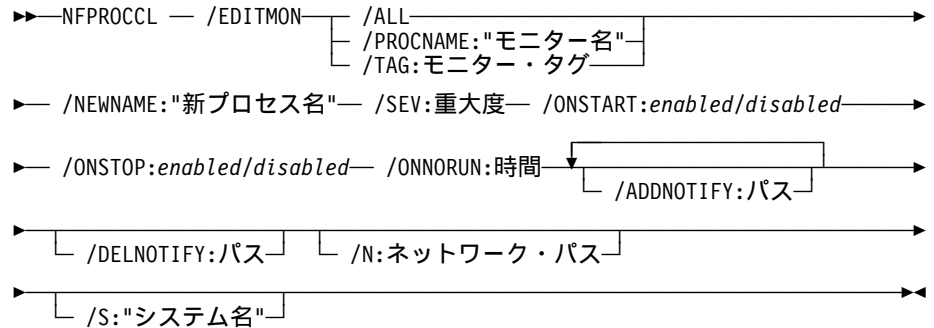
NFPROCCL /DELMON には、次のようなツール固有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** プロセス・モニターのタグまたは名前が無効です
- 201** コマンドの実行が失敗しました

NFPROCCL /EDITMON

構文



コマンドの目的

このコマンドは、選択されたプロセス・モニターを編集します。

パラメーター記述

- /ADDNOTIFY** アラートを通知するためのネットワーク・パスを定義します。この値は、省略可能です。この値の複数指定も可能です。*Local* は、ローカル・システムを意味し、*here* は、マネージャー・プログラムのシステム (NFPROCCL にとってローカルである) の別名です。
- /ALL** すべてのプロセス・モニターを選択します。
- /DELNOTIFY** アラートを通知するためのネットワーク・パスを定義します。この値は、省略可能です。この値の複数指定も可能です。*Local* は、ローカル・システムを意味し、*here* は、マネージャー・プログラムのシステム (NFPROCCL にとってローカルである) の別名です。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /NEWNAME** 新たなプロセス名を定義します。
- /ONNORUN** 省略可能パラメーターで、分を表す整数 または *disabled* のどちらかを指定します。省略時値は、*disabled* です。

- /ONSTART** 省略可能パラメーターで、enabled または disabled のどちらかを指定します。省略時値は、*disabled* です。
- /ONSTOP** 省略可能パラメーターで、enabled または disabled のどちらかを指定します。省略時値は、*disabled* です。
- /PROCNAME** 指定された名前のプロセス・モニターを選択します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /SEV** 重大度を定義します。
- /TAG** 与えられたタグを持つプロセス・モニターを選択します。

コマンド応答

選択された各プロセス・モニターの出力は、次のようになります。

TAG=0xNNNNNNNN

この TAG は、編集された各プロセス・モニターを表す固有のタグです。

NFPROCCL /EDITMON には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** プロセス・モニターのタグまたは名前が無効です
- 201** コマンドの実行が失敗しました

第5章 システム・プロファイル CLI (NFPROFCL)

以下では、Netfinity システム・プロファイルのコマンドライン・ツール NFPROFCL について説明します。

NFPROFCL /?

構文

▶▶—NFPROFCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFPROFCL のコマンドライン・ヘルプを表示します。

NFPROFCL /GETALL

構文

▶▶—NFPROFCL —/GETALL————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、属性とその値のすべてをシステム・プロファイルから検索します。

コマンド応答

各属性の出力は、次のように表示されます。

属性=" 値"

- *属性* は、属性の名前 (システム・プロファイルの中の各属性 に 1 つずつあります)。
- *値* は、文字列、日付、または時刻。

NFPROFCL /GETALL には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

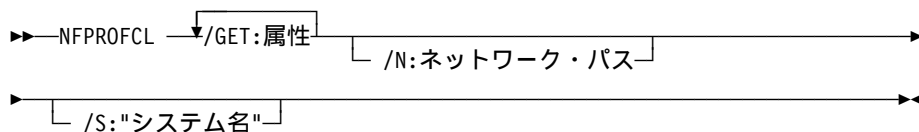
戻りコード 説明

200	属性がありません
201	属性が無効です
202	値がありません
203	値が無効です
204	入力ファイルがありません
205	入力ファイル形式に誤りがあります
206	日付形式に誤りがあります
207	日付が無効です
208	日付が範囲外です
209	時刻形式に誤りがあります

- 210 時刻が無効です
- 211 時刻が範囲外です

NFPROFCL /GET

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された属性 およびその値を検索します。

パラメーター記述

/GET	属性の名前を指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

各属性の出力は、次のように表示されます。

属性=" *値*"

- *属性* は、属性の名前 (システム・プロファイルの中の各属性に 1 つずつあります)。
- *値* は、文字列、日付、または時刻。

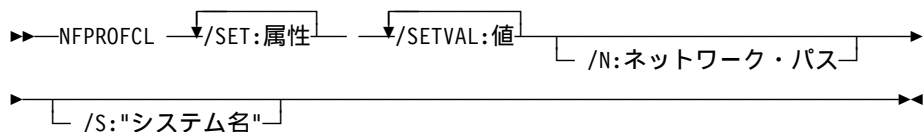
NFPROFCL /GET には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	属性がありません
201	属性が無効です
202	値がありません
203	値が無効です
204	入力ファイルがありません
205	入力ファイル形式に誤りがあります
206	日付形式に誤りがあります
207	日付が無効です
208	日付が範囲外です
209	時刻形式に誤りがあります
210	時刻が無効です
211	時刻が範囲外です

NFPROFCL /SET

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された *属性* を指定された値に設定します。

パラメーター記述

/SET	属性の名前を指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SETVAL	属性を指定された値に設定します。値には、最大 32 文字 (DBCS の場合は 16 文字) まで指定できます。それ以降の文字は切り捨てられます。

コマンド応答

NFPROFCL /SET には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	属性がありません
201	属性が無効です
202	値がありません
203	値が無効です
204	入力ファイルがありません
205	入力ファイル形式に誤りがあります
206	日付形式に誤りがあります
207	日付が無効です
208	日付が範囲外です
209	時刻形式に誤りがあります
210	時刻が無効です
211	時刻が範囲外です

NFPROFCL /SETMANY

構文

```
▶▶—NFPROFCL —/SETMANY— —/INPUT:ファイル名—————▶▶  
▶┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、複数の属性を入力ファイルで指定した値に設定します。

パラメーター記述

- | | |
|---------------|---|
| /INPUT | 入力ファイルの名前を指定します。入力ファイルは、属性="値" のように、1 つの属性に対して 1 行で記述してください。値には、最大 32 文字 (DBCS の場合は 16 文字) まで指定できます。それ以降の文字は切り捨てられます。 |
| /N | ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。 |
| /S | ターゲット・システムのシステム名を指定します。 |

コマンド応答

NFPROFCL /SETMANY には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	属性がありません
201	属性が無効です
202	値がありません
203	値が無効です
204	入力ファイルがありません
205	入力ファイル形式に誤りがあります
206	日付形式に誤りがあります
207	日付が無効です
208	日付が範囲外です
209	時刻形式に誤りがあります
210	時刻が無効です
211	時刻が範囲外です

第6章 サービス構成マネージャー CLI (NFREPLCL)

以下では、Netfinity サービス構成マネージャーのコマンドライン・ツール NFREPLCL について説明します。

NFREPLCL /?

構文

▶▶—NFREPLCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFREPLCL のコマンドライン・ヘルプを表示します。

NFREPLCL /LISTFILES

構文

```
▶▶—NFREPLCL —/LISTFILES—┐ /N:ネットワーク・パス┘  
└ /S:"システム名"┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、サービス構成マネージャーの構成ファイルをすべて表示します。

パラメーター記述

- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFREPLCL /LISTFILES で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ FILE="SCF ディレクトリーからのファイル名", DESC="  
ファイルの記述}
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- FILE は、SCF ファイル名 (拡張子を含む)
- DESC は、SCF ファイルの記述。

NFREPLCL /LISTFILES には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。

NFREPLCL /LISTREMOTES

構文

```
▶▶—NFREPLCL —/LISTREMOTES—┐ /N:ネットワーク・パス┘  
└ /S:"システム名"┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、利用可能なリモート・システムを表示します。

パラメーター記述

- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFREPLCL /LISTREMOTES で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ NAME="システム名", PATH="ネットワーク・パス,"
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- NAME は、リモート・システムの名前。
- PATH は、リモート・システムとの接続に使用される、Netfinity ネットワーク・パス (たとえば、NETBIOS::MYSYSTEM)。

NFREPLCL /LISTREMOTES には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード	説明
200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。

NFREPLCL /LISTSERVICES

構文

```
▶▶—NFSECL —/LISTSERVICES—┐ /N:ネットワーク・パス┘
└ /S:"システム名"┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、保管可能なサービスを表示します。

パラメーター記述

- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFREPLCL /LISTSERVICES で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ NAME="サービス名 SERVICE="サービス ID }
```

- NAME は、サービスのフルネーム (たとえば、"Critical File Monitor")。
- SERVICE は、Netfinity がサービスを識別するために使用するサービス ID (たとえば、"CFMBase")。

NFREPLCL /LISTSERVICES には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。

NFREPLCL /SHOW

構文

```
▶▶—NFREPLCL —/SHOW:SCF ディレクトリーからのファイル名————▶▶  
▶ [ /N:ネットワーク・パス ] [ /S:"システム名" ] ▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、構成ファイルの内容を要約します。

パラメーター記述

/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SHOW	構成ファイルの内容を要約します。

コマンド応答

NFREPLCL /SHOW で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ SERVICE="サービス名",DESC='記述', SYSTEM="システム名",  
DATE="日時", SUBSETS={{NAME="サブセット名", ID=NNN,  
RECORDS={{REC=NNN.NNN, DESC="レコードの記述"}, ...}}, ...}}.
```

- SERVICE は、Netfinity サービスのフルネーム。
- DESC は、SCF ファイルの記述。
- SYSTEM は、その構成を取得したシステムの名前。
- DATE は、構成が保管された日付と時刻。
- NAME は、構成レコードのサブセットの名前。
- RECORDS には、ID、REC、および DESC の値といった、すべての構成レコードのサブセットが含まれます。
 - ID="NNN" は、サブセットの 0 で始まるインデックス番号。
 - REC="NNN.NNN" は、サブセットの 0 で始まるインデックス番号、次にピリオド、そしてサブセット内でのレコードの 0 で始まるインデックス番号。
 - DESC は、レコードのサブセットの記述。

NFREPLCL /SHOW には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
-------	----

200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。
------------	--

NFREPLCL /PRUNE

構文

```
▶▶—NFREPLCL —/PRUNE:SCF ディレクトリーからのファイル名————→  
▶—/REC:NNN.NNN ...——┐ /N:ネットワーク・パス ┘┐ /S:"システム名" ┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、リストされたレコードをファイルから取り除きます。

パラメーター記述

/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/PRUNE	構成ファイルから取り除くファイルを指定します。
/REC	取り除くファイルのレコード番号を示します。REC は、サブセットの0 で始まるインデックス番号、次にピリオド、そしてサブセットのレコードの0 で始まるインデックス番号です。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFREPLCL /PRUNE には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。

NFREPLCL /DELETE

構文

```
▶—NFREPLCL —/DELETE:SCF ディレクトリからのファイル名————▶  
▶┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、リストされたレコードをファイルから取り除きます。

パラメーター記述

/DELETE	構成ファイルから削除するファイルを指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFREPLCL /DELETE には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。

NFREPLCL /SAVE

構文

```
▶▶—NFREPLCL —/SAVE:ファイル名—/SERVICE:サービスID—————▶▶
▶▶—/REMOTE:ネットワーク・パス—/SYSNAME:"システム名"—/DESC:"記述"————▶▶
▶▶┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、リストされたサービスをシステムからファイルへ保管します。

パラメーター記述

/DESC	ファイルに付ける記述を指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/REMOTE	リモート・システムへのパスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SAVE	SCF ディレクトリーに入れる際のファイル名を指定します。
/SERVICE	システムからファイルに保管されるサービス・ファイルを指定します。ただし、SERVICE は、サービスの Netfinity 名を指します (たとえば、"Alert Mgr")。
/SYSNAME	リモート・システム名を指定します。

コマンド応答

NFREPLCL /SAVE には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。

NFREPLCL /RESTORE

構文

```
►—NFREPLCL —/RESTORE:ファイル名—/REMOTE:ネットワーク・パス—/CLEAN—►  
►┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐◄◄
```

コマンドの目的

このコマンドは、サービスをファイルからシステムへ復元します。

パラメーター記述

/CLEAN	サービスをファイルからシステムへ復元する前に、旧構成を削除します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/REMOTE	サービスを復元するために使用するリモート・システムへのパスを指定します。
/RESTORE	SCF ディレクトリーから復元するファイル名を指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFREPLCL /RESTORE には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	サービス構成を扱う方法が見付かりません。通常これは、サービス名を誤って指定したか、あるいは SCF*.DLL がなかったことが考えられます。

第7章 リモート・システム・マネージャー CLI (NFRSYSCL)

以下では、Netfinity リモート・システム・マネージャーのコマンドライン・ツール NFRSYSCL について説明します。

NFRSYSCL /?

構文

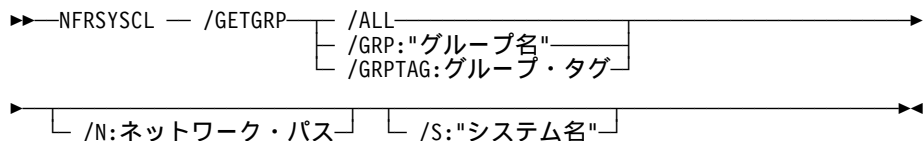
▶▶—NFRSYSCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFRSYSCL のコマンドライン・ヘルプを表示します。

NFRSYSCL /GETGRP

構文



コマンドの目的

このコマンドは、選択されたシステム・グループの属性をリストします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのグループの属性をリストします。
/GRP	選択するグループ名を指定します。
/GRPTAG	選択するグループのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /GETGRP で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ GRPTAG=0xグループ・タグ, GRPNAME="グループ名", COMBO=キーワード組合せ,  
KWD={ キーワード, ... }, OS_MASK={オペレーティング・システム, ...},  
AUTODISC=時間, PROTO_MASK={プロトコル, ...}, DEFONLN=重大度,  
DEFOFFLN=重大度, DEFPING=間隔 }
```

- GRPTAG 値は、そのグループを表す 16 進数の ID。
- GRPNAME 値は、グループ名を表す文字列。

- COMBO 値は、キーワードの組み合わせコード (可能な値は、ALL、ANY、ONE)。
- KWD 値は、キーワード値の文字列を並べたものを括弧でくくったものです。
- OS_MASK 値は、検索から除外されるオペレーティング・システムのタイプを並べたものを括弧でくくったものです (可能な値は、OS2、WINDOWS、NETWARE、WINDOWS_NT、AIX、VINES、DOS、UNIX、OS_400、WINDOWS_95)。
- PROTO_MASK 値は、検索から除外されるプロトコルのタイプを並べたものを括弧でくくったものです (可能な値は、NETBIOS、TCPIP、IPX、SERIPC、SNA)。
- AUTODISC 値は、各自動検索の間の分数 (自動検索が利用不可能な場合は、NONE)。この属性は、自動検索をサポートしていないマネージャー・プログラムには返されません。
- DEFONLN 値は、省略時のオンライン通知重大度 (可能な値は、0 ~ 7、DISABLED、または NONE)。
- DEFOFFLN 値は、省略時のオフライン通知重大度 (可能な値は、0 ~ 7、DISABLED、または NONE)。
- DEFPING 値は、省略時の PING の間隔秒数 (可能な値は、15 以上、または NONE)。

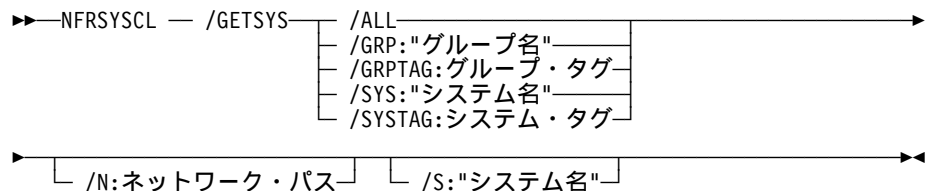
NFRSYSCL /GETGRP には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	グループ名が定義されていません
201	システム名が定義されていません
202	グループ・タグが定義されていません
203	システム・タグが定義されていません
204	無効なオペレーティング・システム・タイプ
205	無効なプロトコル・タイプ
206	無効な PING の間隔
207	無効な通知重大度
208	無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /GETSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、選択されたシステムのシステム属性をリストします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのシステムのシステム属性をリストします。
/GRP	選択するシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	選択するシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SYS	選択するシステムの名前を指定します。
/SYSTAG	選択するシステムのシステム・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /GETSYS で指定された各システムの出力は、次のように表示されません。

```
{ SYSTAG=0xグループ・タグ, SYSNAME="システム名", PROTO=プロトコル,  
  ADDR=アドレス, ONLINE=状態, ONLN=重大度,  
  OFFLN=重大度, PING=間隔, GRPLIST={ グループ・タグ, ... },  
  ERRORCOND={ "エラー状態", ... }, OS=オペレーティング・システム,  
  OSVER=version, MANAGER, SERVER, MAC=MAC アドレス, SHUTDOWN, POWERDOWN,  
  WAKEONLAN, WEBMGR, UNIQUE_ID=固有 ID }
```

- SYSTAG 値は、システムを表す 16 進数の ID。
- SYSNAME 値は、システムを表す文字列名。
- PROTO 値は、システムと通信するために使用されるプロトコル (可能な値には、NETBIOS、TCPIP、IPX、SERIPC、SNA、などがあります)。
- ADDR 値は、プロトコル が使用するシステムのテキスト・アドレス。
- ONLINE 値は、システムがオンラインならば TRUE、オフラインならば FALSE。
- ONLN 値は、オンライン通知アラートの重大度 (可能な値は 0 ~ 7、または利用不可能であれば DISABLED となります)。
- OFFLN 値は、オフライン通知アラートの重大度 (可能な値は 0 ~ 7、または、利用不可能であれば DISABLED となります)。
- PING 値は、各システム PING の間の秒数 (可能な値は、15 以上)。
- GRPLIST 値は、システムをそのメンバーとするグループを表す 16 進数のタグ値を括弧でくくったものです。
- ERRORCODE 値は、現在システムに定義されている各エラー状態の“文字列”を括弧でくくったものです。
- OS 値は、システムで稼働するオペレーティング・システムのタイプ (可能な値は、UNKNOWN、OS2、WINDOWS、NETWARE、WINDOWS_NT、AIX、VINES、DOS、UNIX、OS_400、および WINDOWS_95)。
- OSVER 値は、システムのオペレーティング・システムのバージョン。
- MANAGER キーワードは、指定されたシステムが Netfinity Manager の場合に表示されます。
- SERVER キーワードは、指定されたシステムがサーバーか、サーバー・ソフトウェアを実行している場合、表示されます。
- MAC 値は、システムの MAC アドレスの 16 進数、不明な場合は UNKNOWN となります。
- SHUTDOWN キーワードは、指定されたシステムがリモート遮断をサポートしている場合、表示されます。

- POWERDOWN キーワードは、指定されたシステムがリモート電源遮断をサポートしている場合、表示されます。
- WAKEONLAN キーワードは、指定されたシステムがリモート Wake on LAN をサポートしている場合、表示されます。
- WEBMGR キーワードは、Netfinity Web マネージャー・プログラムがシステム上で活動中の場合に表示されます。
- UNIQUE_ID 値は、表示される場合、クライアントから固有なシステム IDとして与えられた 16 桁の 16 進値を表します (異なるプロトコルのもとにある同一のシステムは、同じ UNIQUE_ID 値を持ちます)。

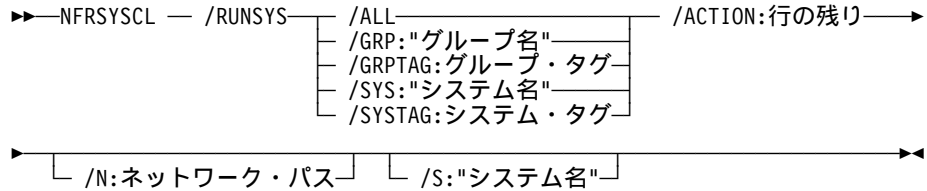
NFRSYSCL /GETSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	グループ名が定義されていません
201	システム名が定義されていません
202	グループ・タグが定義されていません
203	システム・タグが定義されていません
204	無効なオペレーティング・システム・タイプ
205	無効なプロトコル・タイプ
206	無効な PING の間隔
207	無効な通知重大度
208	無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /RUNSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたシステムのすべてで指定された Netfinity コマンドライン・ツールを実行します。

パラメーター記述

/ACTION	実行する Netfinity コマンドライン・ツールを指定します。
/ALL	すべてのシステム上でツールを実行することを指定します。
/GRP	ツールを実行するシステム・グループの名前を指定します。
/GRPTAG	ツールを実行するシステム・グループのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SYS	ツールを実行するシステムの名前を指定します。
/SYSTAG	ツールを実行するシステムのシステム・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

指定された各システムに対する NFRSYSCL /RUNSYS の出力は、次のように表示されます。

```
{ SYSTAG=0xグループ・タグ, SYSNAME="システム名", PROTO=プロトコル,  
ADDR=アドレス, ONLINE=状態, OUTPUT={ アクション出力 },  
RC=戻りコード, 他 }
```

- SYSTAG 値は、システムを表す 16 進数の ID。
- SYSNAME 値は、システム名を表す文字列。
- PROTO 値は、システムと通信するために使用されるプロトコル (可能な値には、NETBIOS、TCPIP、IPX、SERIPC、SNA、などがあります)。
- ADDR 値は、PROTO で表示されたプロトコルのシステムのテキスト・アドレス。
- ONLINE 値は、システムがオンラインならば TRUE、オフラインならば FALSE。
- OUTPUT 値は、指定されたシステムに対して ACTION で選択された実行中のツールからの出力が大括弧で囲まれています (出力は、実行された Netfinity コマンドライン・インターフェースに応じて異なります)。
- RC 値は、指定されたシステムに対して ACTION で指定された実行中のツールから返された戻りコード。

注: この操作でサポートされるのは、本書に詳述されている仕様に適合する Netfinity マネージャーのコマンドライン・インターフェース実行可能ファイルの実行だけです。ターゲット・システムでプログラム実行するためではありません。リモート・タスクの実行については、NFPROCCL を参照してください。

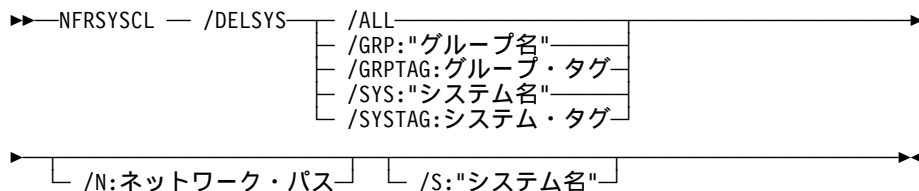
NFRSYSCL /RUNSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** グループ名が定義されていません
- 201** システム名が定義されていません
- 202** グループ・タグが定義されていません
- 203** システム・タグが定義されていません
- 204** 無効な OS タイプ
- 205** 無効なプロトコル・タイプ
- 206** 無効な PING の間隔
- 207** 無効な通知重大度
- 208** 無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /DELSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたシステムをすべて削除します。

パラメーター記述

/ALL	すべてのシステムを選択します。
/GRP	削除するシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	削除するシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SYS	削除するシステムのシステム名を指定します。
/SYSTAG	削除するシステムのシステム・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

指定された各システムに対する NFRSYSCL /DELSYS の出力は、次のように表示されます。

```
SYSTAG=0xgrouphex
```

この システム・タグ は、削除されたシステムを表す 16 進数のタグです。

NFRSYSCL /DELSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** グループ名が定義されていません
- 201** システム名が定義されていません
- 202** グループ・タグが定義されていません
- 203** システム・タグが定義されていません
- 204** 無効なオペレーティング・システム・タイプ
- 205** 無効なプロトコル・タイプ
- 206** 無効な PING の間隔
- 207** 無効な通知重大度
- 208** 無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /ADDSYS

構文

```
▶—NFRSYSCL — /ADDSYS:"システム名" — /PROTO:プロトコル —————▶
▶— /ADDR:アドレス —————▶
└── /ONLN:オンライン重大度 ───┘
▶— /OFFLN:オフライン重大度 ───┘ └── /PING:間隔 ───┘
▶— /ADDGRP:"グループ名" — /ADDGRPTAG:グループ・タグ —————▶
└── /N:ネットワーク・パス ───┘ └── /S:"システム名" ───┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、指定された属性をもつ新規 Netfinity システムを追加します。

パラメーター記述

/ADDGRP	システムを追加するグループ名を指定します。
/ADDGRPTAG	システムを追加するグループのタグを 16 進数で指定します。
/ADDR	追加するシステムのプロトコル上のアドレスを指定します。
/ADDSYS	追加するシステムの名前を指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/OFFLN	オフライン通知アラート重大度を指定します。有効値は、0 ~ 7 および DISABLED (省略時値) です。
/ONLN	オンライン通知アラート重大度を指定します。有効値は、0 ~ 7 および DISABLED (省略時値) です。
/PING	ターゲット・システムへの PING の間隔秒数を指定します。省略時値は、600 秒です。

- /PROTO** 追加するシステムと通信するために使用される通信プロトコルを指定します。値には、NETBIOS、IPX、TCPIP、SERIPC、および SNA があります。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /ADDSYS の出力は、次のように表示されます。

```
SYSTAG=0xgrouphex
```

この グループ・タグ は、新たなシステムに割り当てられた 16 進数のタグです。

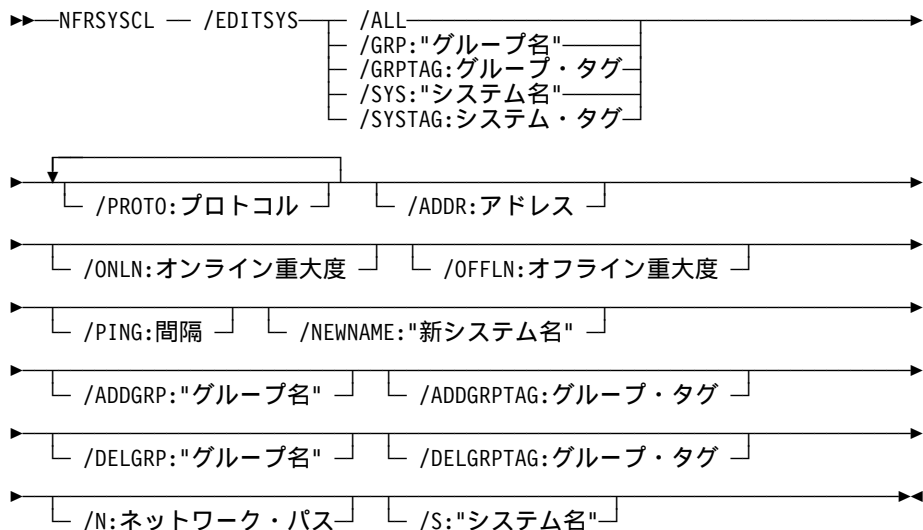
NFRSYSCL /ADDSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

NFRSYSCL /EDITSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、Netfinity システムの属性を変更します。

パラメーター記述

/ADDGRP システムを追加する新たなグループの名前を指定します。グループ名を複数指定することもできます。

/ADDGRPTAG システムを追加する新たなグループのタグを 16 進数で指定します。グループ・タグを複数指定することもできます。

/ADDR システムの新たなプロトコル上のアドレスを指定します。

/ALL すべてのシステムを選択します。

/DELGRP	システムを取り除くグループの名前を指定します。グループ名を複数指定することもできます。
/DELGRPTAG	システムを取り除くグループのタグを 16 進数で指定します。グループ・タグを複数指定することもできます。
/GRP	変更するシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	変更するシステムのグループ番号を 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/NEWNAME	システムの新しい名前を指定します。
/OFFLN	新たなオフライン通知アラート重大度を指定します。有効値は、0 ~ 7 および DISABLED (省略時値) です。
/ONLN	新たなオンライン通知アラート重大度を指定します。有効値は、0 ~ 7 および DISABLED (省略時値) です。
/PING	指定されたシステムへの新たな PING の間隔秒数を指定します。省略時値は、600 秒です。
/PROTO	システムと通信するために使用する予定の、新たな通信プロトコルを指定します。値には、NETBIOS、IPX、TCPIP、SERIPC、および SNA があります。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SYS	変更するシステムのシステム名を指定します。
/SYSTAG	変更するシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /EDITSYS の出力は、次のように表示されます。

```
SYSTAG=0xgrouphex
```

この グループ・タグ は、変更したシステムに割り当てられた 16 進数のタグです。

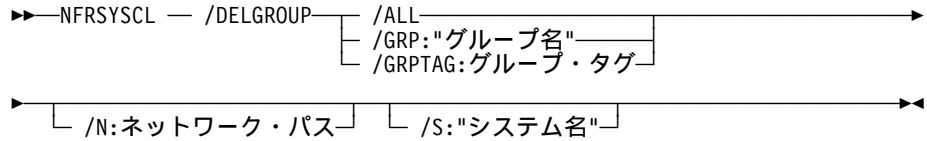
NFRSYSCL /EDITSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

NFRSYSCL /DELGROUP

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された属性をもつ Netfinity グループを削除します。

パラメーター記述

/ALL	すべてのグループを選択します。
/GRP	削除するグループのグループ名を指定します。
/GRPTAG	削除するグループのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /DELGROUP で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
GRPTAG=0xgrouphex
```

この グループ・タグ は、削除されたグループに割り当てられていた 16 進数のタグです。

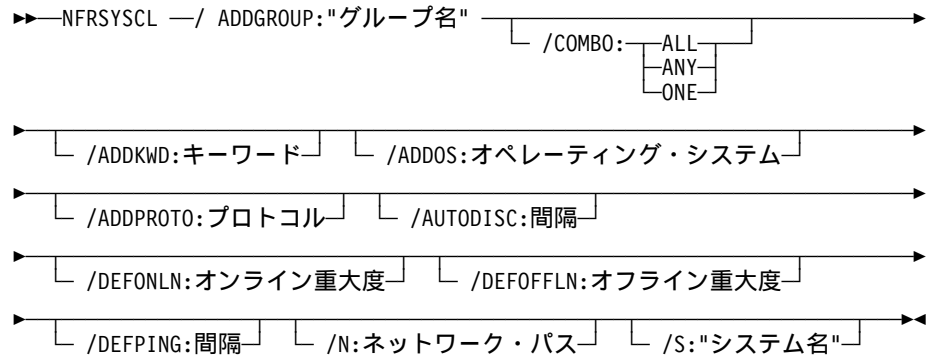
NFRSYSCL /DELGROUP には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

NFRSYSCL /ADDGROUP

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された属性をもつ新規 Netfinity グループを作成します。

パラメーター記述

- /ADDGROUP** 新しいグループの名前を指定します。
- /ADDKWD** 指定されたキーワードを新しいグループに追加します。
- /ADDOS** グループの検出除外リストに追加されるオペレーティング・システムを指定します。
- /ADDPROTO** グループの検出除外リストに追加される通信プロトコルを指定します。
- /AUTODISC** 自動検索の間隔として許されている分数を指定します (省略時値は、NONE)。
- /COMBO** グループのキーワード組合せコード (ALL、ANY、ONE) を指定します。
- /DEFOFFLN** 省略時のオフライン通知アラート重大度を指定します。指定可能な値は、0 ~ 7、DISABLED、および NONE です。省略時値は NONE です。
- /DEFONLN** 省略時のオンライン通知アラート重大度を指定します。指定可能な値は、0 ~ 7、DISABLED、および NONE です。省略時値は NONE です。
- /DEFPING** システム PING の間隔として許されている秒数を指定します。指定可能な値は 15 以上、および NONE です。省略時値は NONE です。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /ADDGROUP で作成された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
GRPTAG=0xgrouphex
```

この グループ・タグ は、グループに割り当てられた 16 進数のタグです。

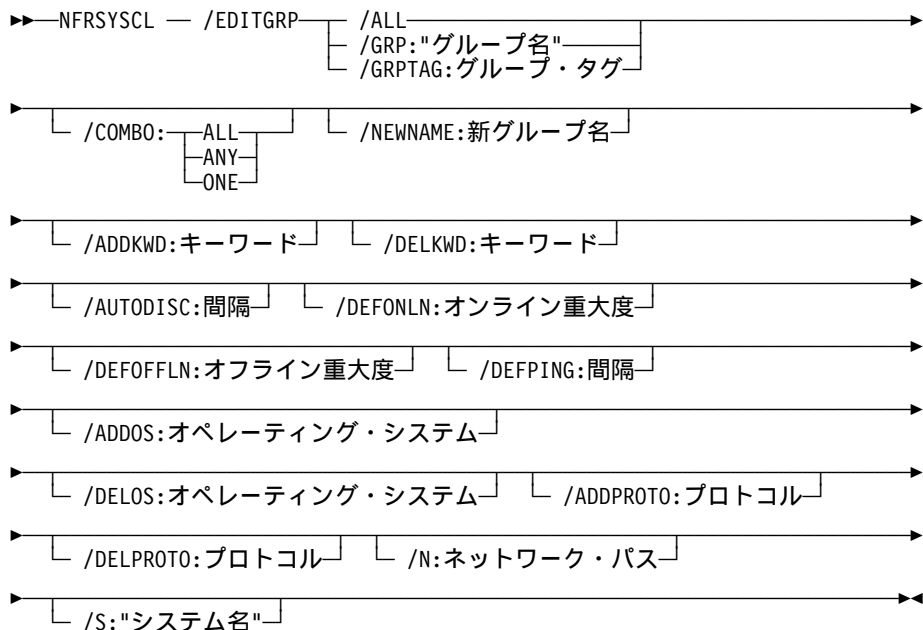
NFRSYSCL /ADDGROUP には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

NFRSYSCL /EDITGRP

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された属性をもつ Netfinity グループを変更します。

パラメーター記述

- /ADDKWD** 指定されたキーワードをグループに追加します。
- /ADDOS** グループの検出除外リストに追加されるオペレーティング・システムを指定します。
- /ADDPROTO** グループの検出除外リストに追加される通信プロトコルを指定します。

- /AUTODISC** 自動検索の間隔として許されている分数を指定します (省略時値は、NONE)。
- /COMBO** 新たなキーワード組合せコード (ALL、ANY、ONE) を指定します。
- /DEFOFFLN** 省略時のオフライン通知アラート重大度を指定します。指定可能な値は、0 ~ 7、DISABLED、および NONE です。省略時値は NONE です。
- /DEFONLN** 省略時のオンライン通知アラート重大度を指定します。指定可能な値は、0 ~ 7、DISABLED、および NONE です。省略時値は NONE です。
- /DEFPING** システム PING の間隔として許されている秒数を指定します。指定可能な値は 15 以上、および NONE です。省略時値は NONE です。
- /DELKWD** 指定されたキーワードをグループから削除します。
- /DELOS** グループの検出除外リストから取り除かれるオペレーティング・システムを指定します。
- /DELPROTO** グループの検出除外リストから取り除かれる通信プロトコルを指定します。
- /EDITGRP** 選択された Netfinity グループを変更します。/ALL は、すべてのグループを変更します。/GRP は、変更するグループ名を指定します。/GRPTAG は、変更するグループの 16 進数を指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /NEWNAME** グループの新しい名前を指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /EDITGRP で指定された各グループの出力は、次のように表示されま
す。

```
GRPTAG=0xgrouphex
```

この グループ・タグ は、グループに割り当てられた 16 進数のタグです。

NFRSYSCL /EDITGRP には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

NFRSYSCL /BOOTSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された Netfinity システムをすべて再始動します。

パラメーター記述

- | | |
|----------------|--|
| /ALL | すべてのシステムを選択します。 |
| /GRP | 再始動するシステムのグループ名を指定します。 |
| /GRPTAG | 再始動するシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。 |
| /N | ターゲット・システム (再始動コマンドを開始するシステム) へのネットワーク・パスを指定します。 |
| /S | ターゲット・システム (再始動コマンドを開始するシステム) のシステム名を指定します。 |
| /SYS | 再始動するシステムの名前を指定します。 |
| /SYSTAG | 再始動するシステムのシステム・タグを 16 進数で指定します。 |

コマンド応答

NFRSYSCL /BOOTSYS で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ SYSTAG=0x グループ・タグ, RC=戻りコード }
```

ただし、

- SYSTAG 値は、システムの 16 進数のタグ。
- RC 値は、システムでのアクションに対する標準エラー・レベル。

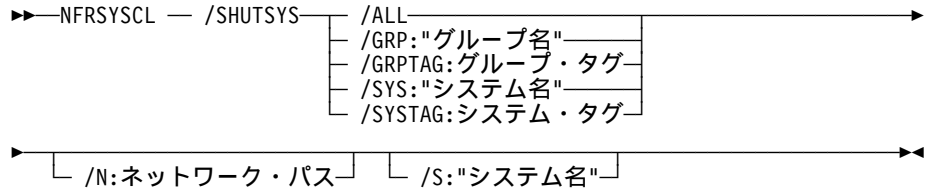
NFRSYSCL /BOOTSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	グループ名が定義されていません
201	システム名が定義されていません
202	グループ・タグが定義されていません
203	システム・タグが定義されていません
204	無効なオペレーティング・システム・タイプ
205	無効なプロトコル・タイプ
206	無効な PING の間隔
207	無効な通知重大度
208	無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /SHUTSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された Netfinity システムをすべてシャットダウンします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのシステムを選択します。
/GRP	シャットダウンするシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	シャットダウンするシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システム (シャットダウン・コマンドを開始するシステム) へのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システム (シャットダウン・コマンドを開始するシステム) のシステム名を指定します。
/SYS	シャットダウンするシステムの名前を指定します。
/SYSTAG	シャットダウンするシステムのシステム・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /SHUTSYS で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

{ SYSTAG=0xグループ・タグ, RC=戻りコード }

ただし、

- SYSTAG 値は、システムの 16 進数のタグ。
- RC 値は、システムでのアクションに対する標準エラー・レベル。

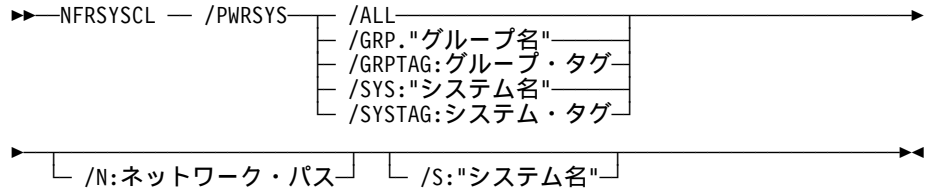
NFRSYSCL /SHUTSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	グループ名が定義されていません
201	システム名が定義されていません
202	グループ・タグが定義されていません
203	システム・タグが定義されていません
204	無効なオペレーティング・システム・タイプ
205	無効なプロトコル・タイプ
206	無効な PING の間隔
207	無効な通知重大度
208	無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /PWRSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定された Netfinity システムをすべて電源遮断します。

パラメーター記述

/ALL	すべてのシステムを選択します。
/GRP	電源遮断するシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	電源遮断するシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システム (電源遮断コマンドを開始するシステム) へのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システム (電源遮断コマンドを開始するシステム) のシステム名を指定します。
/SYS	与えられたシステム名を持つシステムを電源遮断します。
/SYSTAG	与えられた 16 進数のシステム・タグを持つシステムを電源遮断します。

コマンド応答

NFRSYSCL /PWRSYS で指定された各グループの出力は、次のように表示されま
す。

{ SYSTAG=0x グループ・タグ, RC=戻りコード }

ただし、

- SYSTAG 値は、システムの 16 進数のタグ。
- RC 値は、システムでのアクションに対する標準エラー・レベル。

NFRSYSCL /PWRSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	グループ名が定義されていません
201	システム名が定義されていません
202	グループ・タグが定義されていません
203	システム・タグが定義されていません
204	無効なオペレーティング・システム・タイプ
205	無効なプロトコル・タイプ
206	無効な PING の間隔
207	無効な通知重大度
208	無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /WAKESYS

構文



コマンドの目的

このコマンドは、指定されたシステムに特殊な形式のネットワーク・パケットを送信することによって、指定された Netfinity Wake on LAN システムすべての電源をリモート側からオンにすることができますようにします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのシステムを選択します。
/GRP	立ち上げるシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	立ち上げるシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システム (Wake on LAN コマンドを開始するシステム) へのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システム (Wake on LAN コマンドを開始するシステム) のシステム名を指定します。
/SYS	立ち上げるシステムの名前を指定します。
/SYSTAG	立ち上げるシステムのシステム・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /WAKESYS で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

{ SYSTAG=0x グループ・タグ, RC=戻りコード }

各項目の内容は次のとおりです。

- SYSTAG 値は、システムの 16 進数のタグ。
- RC 値は、システムでのアクションに対する標準エラー・レベル。

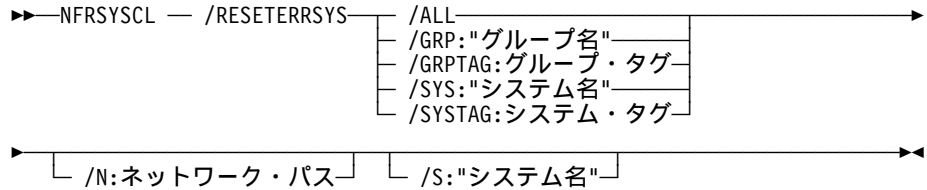
NFRSYSCL /WAKESYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	グループ名が定義されていません
201	システム名が定義されていません
202	グループ・タグが定義されていません
203	システム・タグが定義されていません
204	無効なオペレーティング・システム・タイプ
205	無効なプロトコル・タイプ
206	無効な PING の間隔
207	無効な通知重大度
208	無効な自動検索の間隔

NFRSYSCL /RESETERRSYS

構文



コマンドの目的

このコマンドでは、指定されたすべての Netfinity システムでのエラー状態をリセットします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのシステムを選択します。
/GRP	リセットするシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	リセットするシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システム (リセット・コマンドを開始するシステム) へのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システム (リセット・コマンドを開始するシステム) のシステム名を指定します。
/SYS	選択するシステム名を指定します。
/SYSTAG	選択するシステム・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /RESETERRSYS で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

SYSTAG=0xgrouphex

この SYSTAG 値は、システムの 16 進数のタグです。

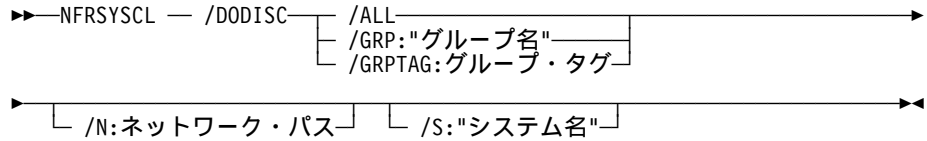
NFRSYSCL /RESETERRSYS には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

NFRSYSCL /DODISC

構文



コマンドの目的

このコマンドは、すべての指定されたシステム・グループで検出を開始します。

パラメーター記述

/ALL	すべてのグループを選択します。
/GRP	検索を行うグループ名を指定します。
/GRPTAG	検索を行うグループのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /DODISC で指定された各グループの出力は、次のように表示されま
す。

GRPTAG=0xgrouphex

この GRPTAG 値は、グループを表す 16 進数の ID です。

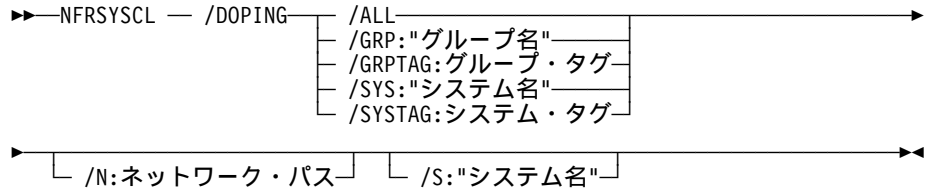
NFRSYSCL /DODISC には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

NFRSYSCL /DOPING

構文



コマンドの目的

このコマンドでは、指定された Netfinity システムのすべてを対象に、存在検査を開始します。

パラメーター記述

/ALL	すべてのシステムを選択します。
/GRP	存在検査を行うシステムのグループ名を指定します。
/GRPTAG	存在検査を行うシステムのグループ・タグを 16 進数で指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SYS	存在検査を行うシステムの名前を指定します。
/SYSTAG	存在検査を行うシステムのシステム・タグを 16 進数で指定します。

コマンド応答

NFRSYSCL /DOPING で指定された各システムの出力は、次のように表示され
ます。

SYSTAG=0xgrouphex

この SYSTAG 値は、システムの 16 進数のタグです。

NFRSYSCL /DOPING には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- | | |
|------------|----------------------|
| 200 | グループ名が定義されていません |
| 201 | システム名が定義されていません |
| 202 | グループ・タグが定義されていません |
| 203 | システム・タグが定義されていません |
| 204 | 無効なオペレーティング・システム・タイプ |
| 205 | 無効なプロトコル・タイプ |
| 206 | 無効な PING の間隔 |
| 207 | 無効な通知重大度 |
| 208 | 無効な自動検索の間隔 |

第8章 安全保護マネージャー CLI (NFSECCL)

以下では、Netfinity 安全保護マネージャーのコマンドライン・ツール NFSECCL について説明します。

NFSECCL /?

構文

▶▶—NFSECCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFSECCL のコマンドライン・ヘルプを表示します。

NFSECCL /LISTIN /ALL

構文

```
▶▶—NFSECCL —/LISTIN—/ALL—┐ /N:ネットワーク・パス┘  
└ /S:"システム名"┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、他のシステムからログインしてくるためのユーザー ID の属性をリストします。

パラメーター記述

/ALL	システムにログインしてくるすべてのユーザー ID を選択します。
/LISTIN	システムにログインしてくるすべてのユーザー ID をリストします。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /LISTIN /ALL には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /LISTIN /USERID

構文

```
▶▶—NFSECCL —/LISTIN—/USERID:"ユーザーID"——▶
└── /N:ネットワーク・パス ─┘
▶── /S:"システム名" ───▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、与えられたユーザー ID の属性をリストします。

パラメーター記述

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| /LISTIN | ユーザー ID を指定します。必ず、すべて大文字にしてください。 |
| /N | ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。 |
| /S | ターゲット・システムのシステム名を指定します。 |

コマンド応答

NFSECCL /LISTIN の出力は、次のように表示されます。

```
{ USERID="ユーザー ID", PWD="パスワード", SECMGR, SVC=
{"サービス名",...} }.
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- USERID 値は、ユーザー ID の文字列。
- PWD 値は、パスワードの文字列。
- SECMGR キーワードは、安全保護マネージャーのアクセス権が、与えられたユーザー ID に対して定義されている場合、表示されます。
- SVC 値は、サービス ID の文字列を大括弧でリストします (基本サービス・ノード名、または、すべてのサービスの場合は ALL となります)。

NFSECCL /LISTIN には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /DELIN /ALL

構文

```
▶▶NFSECCL —/DELIN—/ALL ───────────────────────────────────────────▶
└── /N:ネットワーク・パス ───────────────────────────────────────────┘
▶ ───────────────────────────────────────────▶▶
└── /S:"システム名" ───────────────────────────────────────────▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、他のシステムからログインしてくるためのユーザー ID を削除します。

パラメーター記述

/ALL	システムにログインしてくるすべてのユーザー ID を選択します。
/DELIN	システムにログインしてくるすべてのユーザー ID を削除します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /DELIN /ALL には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /DELIN /USERID

構文

```
▶▶—NFSECCL —/DELIN—/USERID:"ユーザーID" ┌ /N:ネットワーク・パス ─▶▶
▶ ┌ /S:"システム名" ─▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、他のシステムからログインしてくるためのユーザー ID を削除します。

パラメーター記述

/DELIN	他のシステムからログインしてくるためのユーザー ID を削除します。ユーザー ID は、すべて大文字にしてください。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /DELIN には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /ADDIN

構文

```
▶▶—NFSECCL —/ADDIN:"ユーザーID"—/PWD:"パスワード"—/ADDSECMGR————→  
▶—/ADDSVC:"サービス"—/IGNORESVC————→  
└─ /N:ネットワーク・パス ─┘  
▶ └─ /S:"システム名" ─┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、他のシステムからログインしてくるための新たなユーザーIDを追加します。

パラメーター記述

- /ADDIN** ユーザー ID を指定します。必ず、すべて大文字にしてください。
- /ADDSECMGR**
アクセス権を追加する安全保護マネージャーを指定します (任意指定)。省略時は、SECMGR の設定はありません。
- /ADDSVC** サービスへのアクセス権を指定します (任意指定。複数指定も可)。サービス ID、または、すべてのサービスの場合は ALL を指定します。
- /IGNORESVC** ADDSVC パラメーターでの不明なサービスを無視します (任意指定。省略時値が不明な場合はエラーです)。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /PWD** パスワードの値を指定します。必ず、すべて大文字にしてください。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /ADDIN には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /EDITIN

構文

```
▶▶NFSECCL —/EDITIN:"ユーザーID"—/PWD:"パスワード"—/ADDSECMGR————▶▶
▶▶/DELSECMGR—/ADDSVC:"サービス"—/DELSVC:"サービス"—/IGNORESVC————▶▶
▶▶└─/N:ネットワーク・パス┐ └─/S:"システム名"┐▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、他のシステムからログインしてくるためのユーザー ID を変更します。

パラメーター記述

/ADDSECMGR

新たに安全保護マネージャーのアクセス権を追加します。

/ADDSVC

サービスへのアクセス権を選択します (任意指定。複数指定も可)。サービス ID の文字列、または、すべてのサービスの場合は ALL を指定します。

/DELSECMGR

安全保護マネージャーのアクセス権を削除します (省略可)。

/DELSVC

サービスへのアクセス権を削除します (省略可。複数指定も可)。サービス ID の文字列、または、すべてのサービスの場合は ALL を指定します。

/EDITIN

ユーザー ID の値を指定します。必ず、すべて大文字にしてください。

/IGNORESVC

ADDSVC および DELSVC パラメーターでの不明なサービスを無視します (省略可。省略した場合、不明サービスがあるとエラーを発生します)。

/N

ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。

/PWD

新規パスワードを示します。必ず、すべて大文字にしてください。

/S ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /EDITIN には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /LISTOUT /ALL

構文

```
▶▶—NFSECCL —/LISTOUT—/ALL—┐ /N:ネットワーク・パス┘
└ /S:"システム名"┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、すべてのログイン先ホスト ID の属性をリストします。

パラメーター記述

/ALL	すべてのホスト ID を選択します。
/LISTOUT	選択されたホスト ID をリストします。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /LISTOUT /ALL には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /LISTOUT

構文

```
▶▶—NFSECCL —/LISTOUT—/HOST:"ホスト"————→  
└ /N:ネットワーク・パス┘  
▶└ /S:"システム名"┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、選択されたホスト ID の属性をリストします。

パラメーター記述

/HOST	特定のホスト ID を選択します。
/LISTOUT	選択されたホスト ID をリストします。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /LISTOUT で指定された各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{HOST="ホスト", USERID="ユーザー ID", PWD="パスワード" }
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- HOST 値は、ホスト ID の文字列。
- USERID 値は、ユーザー ID の文字列。
- PWD 値は、パスワードの文字列。

NFSECCL /LISTOUT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /DELOUT /ALL

構文

```
▶▶—NFSECCL —/DELOUT—/ALL—┐ /N:ネットワーク・パス┘  
└ /S:"システム名"┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、すべてのログイン先ホスト ID を削除します。

パラメーター記述

/ALL	すべてのログイン先ホスト ID が削除されることを指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /DELOUT /ALL には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /DELOUT

構文

```
▶▶—NFSECCL —/DELOUT—/HOST:"ホスト"————→  
└─ /N:ネットワーク・パス ─┘  
▶└─ /S:"システム名" ─┘▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、特定のログイン先ホスト ID を削除します。

パラメーター記述

/HOST	削除されるログイン先ホスト ID を指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /DELOUT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /ADDOUT

構文

```
➡ NFSECCL /ADDOUT:"ホスト"/SETUID:"ユーザーID"/PWD:"パスワード" ➡  
└─┬─┘└─┬─┘└──────────┘└──────────┘  
  /N:ネットワーク・パス  /S:"システム名"
```

コマンドの目的

このコマンドは、新たにログイン先ホスト ID を追加します。

パラメーター記述

/ADDOUT	追加されるログイン先ホスト ID を指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/PWD	ホスト ID のパスワードを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SETUID	ホスト ID に対するユーザー ID を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /ADDOUT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /EDITOUT /ALL

構文

```
▶▶—NFSECCL —/EDITOUT—/ALL—/SETUID:"ユーザーID"—/PWD:"パスワード"————▶  
▶┌ /N:ネットワーク・パス ─┐ ┌ /S:"システム名" ─┐▶▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、すべてのログイン先ホスト ID を変更します。

パラメーター記述

/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SETUID	ホスト ID に対するユーザー ID を指定します。
/PWD	ホスト ID のパスワードを指定します。

コマンド応答

NFSECCL /EDITOUT /ALL には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

NFSECCL /EDITOUT

構文

```
▶—NFSECCL —/EDITOUT—/HOST:"ホスト"—/SETUID:"ユーザー ID"—————▶  
▶—/PWD:"パスワード"—————▶  
└─ /N:ネットワーク・パス ─┘ └─ /S:"システム名" ─┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、指定されたログイン先ホスト ID を変更します。

パラメーター記述

/HOST	変更する、特定のログイン先ホスト ID を識別します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/PWD	ホスト ID のパスワードを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。
/SETUID	ホスト ID に対するユーザー ID を指定します。

コマンド応答

NFSECCL /EDITOUT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	システムにログインしてくるユーザー ID が識別できません
201	ログイン先ノードが定義されていません
202	無効なパスワード
203	無効なユーザー ID
204	無効なサービス

第9章 ソフトウェア・インベントリー CLI (NFSINVCL)

以下では、Netfinity ソフトウェア・インベントリーのコマンドライン・ツール NFSINVCL について説明します。

NFSINVCL /?

構文

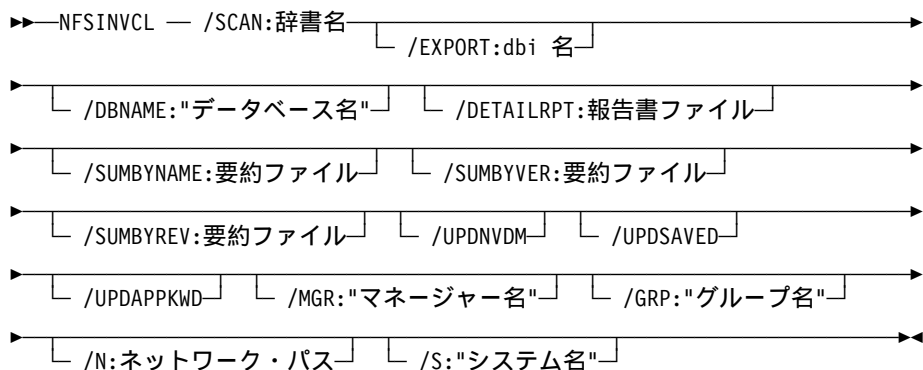
▶▶—NFSINVCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFSINVCL コマンドライン・ヘルプを表示します。

NFSINVCL /SCAN

構文



コマンドの目的

このコマンドでは、指定された Netfinity 辞書ファイル *辞書名* を使用して、指定されたシステム上のドライブをすべてスキャンし、指定された出力を生成します。

パラメーター記述

- /EXPORT** 選択されたデータベースへエクスポートするために使用されるデータベース・インターフェース・モジュール (DBI) の名前を指定します (たとえば、DB2OS2CI または DB2WINFI)。
- /DBNAME** ターゲット・データベースの名前を指定します。形式は、使用される特定の DBI ドライバーに依存します。任意指定ですが、EXPORT が定義されている場合、必須です。
- /DETAILRPT** 詳細な報告書が追加されるファイル名を指定します。
- /SUMBYNAME** 名前別要約報告書が追加されるファイル名を指定します。
- /SUMBYVER** バージョン別要約報告書が追加されるファイル名を指定します。
- /SUMBYREV** 改訂別要約報告書が追加されるファイル名を指定します。

- /UPDNVDM** NVDM インベントリーを更新します。
- /UPDSAVED** 保管されたインベントリー・リストを更新します。
- /UPDAPPKWD**
アプリケーション・キーワードを更新します。
- /MGR** 要求を行うマネージャー・プログラムの名前を指定します。
- /GRP** システムのグループ名を指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。 任意指定ですが、EXPORT が定義されている場合、必須です。

コマンド応答

NFSINVCL /SCAN には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** 選択された辞書ファイルにエラーがありました
- 201** 報告書ファイルへの書き込みエラーです
- 202** データベースのエクスポート中にエラーがありました
- 203** NVDM 更新中にエラーがありました
- 204** 保管されたインベントリーの更新中にエラーがありました
- 205** アプリケーション・キーワードの更新中にエラーがありました
- 206** ソフトウェア・インベントリー・タスク (SINVBASE.EXE) が実行できません

第10章 システム・モニター CLI (NFSMONCL)

以下では、Netfinity システム・モニターのコマンドライン・ツール NFSMONCL について説明します。

NFSMONCL /?

構文

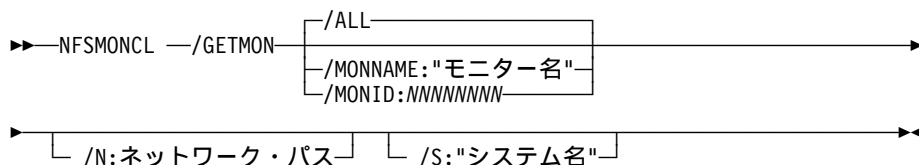
▶▶—NFSMONCL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFSMONCL のコマンドライン・ヘルプを表示します。

NFSMONCL /GETMON

構文



コマンドの目的

このコマンドは、モニター情報および属性グループ情報をリストします。

パラメーター記述

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| /ALL | モニターと属性グループをすべて選択します。 |
| /MONNAME | 与えられた名前を持つ、モニターと属性グループを選択します。 |
| /MONID | 与えられたモニター ID を持つ、モニターと属性グループを選択します。 |
| /N | ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。 |
| /S | ターゲット・システムのシステム名を指定します。 |

コマンド応答

NFSMONCL /GETMON で選択された各モニターの出力は、次のように表示されます。

```
{ MONITOR_ID=0xNNNNNNNN, NAME="属性名", SAMPLE=  
間隔, VALUE=現在値, UNITS_LBL="単位文字列"  
, RECORDING=enab, MINVAL=最小値, MAXVAL=  
最大値 他 }
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- MONITOR ID 値は、モニター ID を表す 16 進数。

- NAME 値は、属性の名前の文字列。
- SAMPLE 値は、属性のサンプル間隔。単位はミリ秒です。
- VALUE は、現在の属性の値を表す 10 進数値。
- UNITS_LBL 値は、データ・タイプ・ラベルの文字列。
- RECORDING 値は、データの記録状態を示します (ENABLED または DISABLED)。
- MINVAL 値は、範囲に対する最小値の 10 進数値。
- MAXVAL 値は、範囲に対する最大値の 10 進数値。

NFSMONCL /GETMON で選択された各属性の出力は、次のように表示されま
す。

```
{ ATTRIB_ID=0xNNNNNNNN, NAME="属性名", SAMPLE=  
間隔, RECORDING=enable, { 属性情報, 属性情報. ... }  
, 他}
```

ただし、

- ATTRIB_ID 値は、属性 ID を表す 16 進数。
- NAME 値は、属性グループの名前の文字列。
- SAMPLE 値は、属性グループのサンプル間隔。単位はミリ秒です。
- RECORDING 値は、データの記録状態を示します (ENABLED または DISABLED)。

属性情報は、データのまとまりを大括弧で囲み、その形式は次のとおりです。

```
{ ATTRIB_SUBID=0xNNNNNNNN, NAME="属性名", VAL_ENUM=  
{ "値の記述" ... }, VALUE=値 }
```

ただし、

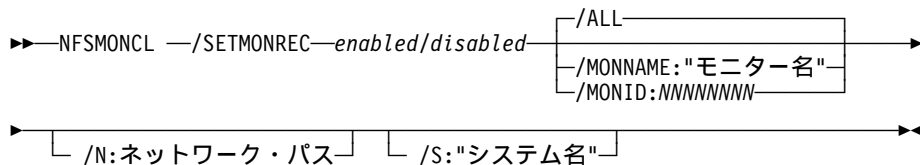
- ATTRIB_SUBID 値は、属性グループを表す 16 進数の ID。
- NAME 値は、属性の名前の文字列。
- VAL_ENUM は、列挙型値の文字列を括弧で囲んだリストを表す値 (0から始まる索引)。
- VALUE は、現行値の VAL_ENUM リストの索引、または (VAL_ENUM リストがない場合は) 現行値の文字列。

NFSMONCL /GETMON には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	モニター ID または属性グループ ID が不明です
201	モニター名または属性グループ名が不明です
202	モニターしきい値名または属性グループしきい値名が不明です

NFSMONCL /SETMONREC

構文



コマンドの目的

このコマンドは、選択されたモニターの記録を設定します。

パラメーター記述

- /ALL** モニターと属性グループをすべて選択します。
- /MONNAME** 与えられた名前を持つ、モニターと属性グループを選択します。
- /MONID** 与えられたモニター ID を持つ、モニターと属性グループを選択します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /SETMONREC** 選択されたモニターの記録を設定します (ENABLED または DISABLED)。

コマンド応答

NFSMONCL /SETMONREC で変更された各モニターの出力は、次のように表示されます。

```
MONITOR_ID=0xNNNNNNNN
```

この NNNNNNNN は、16 進数のモニター ID です。

NFSMONCL /SETMONREC で変更された各属性グループの出力は、次のように表示されます。

```
ATTRIB_ID=0xNNNNNNNN
```

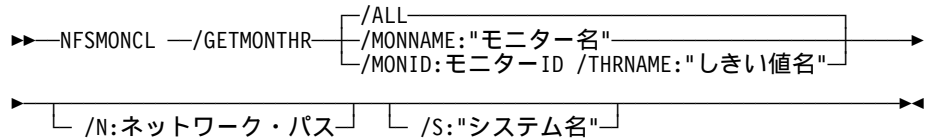
この NNNNNNNN は、16 進数の属性 ID です。

NFSMONCL /SETMONREC には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード	説明
200	モニター ID または属性グループ ID が不明です
201	モニター名または属性グループ名が不明です
202	モニターしきい値名または属性グループしきい値名が不明です

NFSMONCL /GETMONTHR

構文



コマンドの目的

このコマンドは、選択されたモニターしきい値の情報をリストします。

パラメーター記述

- /ALL** すべてのモニターしきい値を選択します。
- /GETMONTHR**
 指定されたモニターしきい値を選択します。
- /MONNAME** モニター名を指定します。
- /MONID** モニター ID を指定します。

 注: /MONID は、/THRNAME が指定されている場合、必須です。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /THRNAME** 選択の範囲を、与えられた名前のしきい値に限定します。

 注: /MONID は、/THRNAME が指定されている場合、必須です。

コマンド応答

NFSMONCL /GETMONTHR で選択されたしきい値の各グループの出力は、次のように表示されます。

```
{ MONITOR_ID=0xNNNNNNNN, THRESNAME="しきい値名",  
DUR=秒数, RPT=秒数, HIERRVAL=重大度,  
HIERRSEV=重大度, HIERRNTFY=enabled/disabled, HIWRNVAL=値,  
HIWRNSEV=重大度, HIEWRNTFY=enabled/disabled, LOWRNVAL=値,  
LOWRSEV=重大度, LOWRNTFY=enabled/disabled, LOERRVAL=値,  
LOERRSEV=重大度, LOERRNTFY=enabled/disabled, RTNSEV=重大度,  
RTNNTFY=enabled/disabled, LOCALNTFY=enabled/disabled, 他 }
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- MONITOR_ID 値は、16 進数のモニター ID。
- THRESNAME 値は、しきい値名の文字列。
- DUR 値は、しきい値の時間を表す秒数。
- RPT 値は、しきい値の再送時間を表す秒数。
- HIERRVAL 値は、高エラーしきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE。
- HIERRSEV 値は、高エラーしきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7)。
- HIERRNTFY 値は、管理システムに関するしきい値の通知状態。値は、ENABLED または DISABLED のどちらかになります。
- HIWRNVAL 値は、高警告しきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE。
- HIWRNSEV 値は、高警告しきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7)。
- HIEWRNTFY 値は、管理システムに関するしきい値の通知状態。値は、ENABLED または DISABLED のどちらかになります。
- LOWRRVAL 値は、低警告しきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE。
- LOWRRSEV 値は、低警告しきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7)。
- LOWRNTFY 値は、管理システムに関するしきい値の通知状態。値は、ENABLED または DISABLED のどちらかになります。
- LOERRVAL 値は、低エラーしきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE。

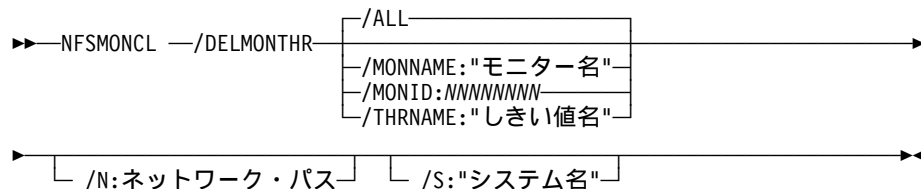
- LOERRSEV 値は、低エラーしきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7)。
- LOERRNTFY 値は、管理システムに関するしきい値の通知状態。値は、ENABLED または DISABLED のどちらかになります。
- RTNSEV 値は、正常復帰アラートの重大度 (0 ~ 7)。
- RTNNTFY 値は、管理システムに関する正常復帰の通知状態。値は、ENABLED または DISABLED のどちらかになります。
- LOCALNTFY 値は、ローカル・システムに関する通知状態。値は、ENABLED または DISABLED のどちらかになります。

NFSMONCL /GETMONTHR には、次のようなツール特有の戻りコードがありません。

戻りコード	説明
200	モニター ID または属性グループ ID が不明です
201	モニター名または属性グループ名が不明です
202	モニターしきい値名または属性グループしきい値名が不明です

NFSMONCL /DELMONTHR

構文



コマンドの目的

このコマンドは、選択されたモニターしきい値を削除します。

パラメーター記述

- /ALL** すべてのモニターしきい値を選択します。
- /DELMONTHR** 選択されたモニターしきい値を削除します。
- /MONNAME** モニター名を指定します。
- /MONID** モニター ID を指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。
- /THRNAME** 選択の範囲を与えられた名前のしきい値に限定します。

コマンド応答

NFSMONCL /DELMONTHR の選択された各しきい値の出力は、次のように表示されます。

```
{ MONITOR_ID=0xNNNNNNNN, THRESNAME="しきい値名"}
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

- MONITOR_ID 値は、モニター ID。
- THRESNAME 値は、しきい値名の文字列。

NFSMONCL /DELMONTHR には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	モニター ID または属性グループ ID が不明です
201	モニター名または属性グループ名が不明です
202	モニターしきい値名または属性グループしきい値名が不明です

NFSMONCL /ADDMONTHR

構文

```
▶—NFSMONCL —/ADDMONTHR:"しきい値名"—/MONID:NNNNNNNN—/DUR:秒数————▶
▶—/RPT:秒数—/HIERRVAL:値—/HIERRSEV:重大度————▶
▶—/HIERRNTFY:enabled/disabled—/HIWRNVAL:値—/HIWRNSEV:重大度————▶
▶—/HIWRNNTFY:enabled/disabled—/LOWRNVAL:値—/LOWRNSEV:重大度————▶
▶—/LOWRNNTFY:enabled/disabled—/LOERRVAL:値—/LOERRSEV:重大度————▶
▶—/LOERRNTFY:enabled/disabled—/RTNSEV:重大度————▶
▶—/RTNNTFY:enabbled/disabled—/LOCALNTFY:enabled/disabled————▶
└─┬─/N:ネットワーク・パス└─┬─/S:"システム名"└─┬─▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、新たなモニターしきい値を追加します。

パラメーター記述

/ADDMONTHR

追加するしきい値名の文字列を指定します (必須)。

/DUR

しきい値の時間を表す秒数を指定します (省略時値は 0)。

/HIERRNTFY

管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。

/HIERRSEV

高エラーしきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 2)。

/HIERRVAL

高エラーしきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。

/HIWRNNTFY

管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。

/HIWRNSEV

高警告しきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 4)。

- /HIWRNVAL** 高警告しきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。
- /LOCALNTFY** ローカル通知の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /LOERRNTFY** 管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /LOERRSEV** 低エラーしきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 2)。
- /LOERRVAL** 低エラーしきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。
- /LOWRNNTFY** 管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /LOWRNSEV** 低警告しきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 4)。
- /LOWRNVAL** 低警告しきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。
- /MONID** 属性 ID を 16 進数で指定します (必須)。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /RPT** しきい値の再送時間を表す秒数を指定します (省略時値は 0)。
- /RTNNTFY** 管理システムに関する正常復帰の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /RTNSEV** 正常復帰アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 6)。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSMONCL /ADDMONTHR の新たなしきい値の出力は、次のように表示されます。

```
{ MONITOR_ID=0xNNNNNNNN, THRESNAME="しきい値名"}
```

ただし、

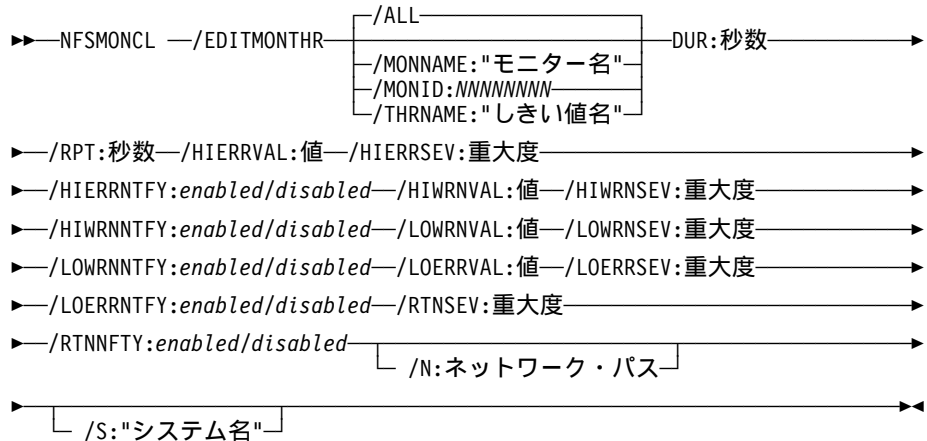
- MONITOR_ID 値は、モニター ID。
- THRESNAME 値は、しきい値名の文字列。

NFSMONCL /ADDMONTHR には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	モニター ID または属性グループ ID が不明です
201	モニター名または属性グループ名が不明です
202	モニターしきい値名または属性グループしきい値名が不明です

NFSMONCL /EDITMONTHR

構文



コマンドの目的

このコマンドは、モニターしきい値を編集します。

パラメーター記述

- /ALL** 全てのモニターしきい値を選択します。
- /DUR** しきい値の継続時間を表す秒数を指定します (省略時値は 5)。
- /EDITMONTHR** 選択されたモニターのしきい値を編集します。
- /HIERRNTFY** 管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /HIERRSEV** 高エラーしきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 2)。
- /HIERRVAL** 高エラーしきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。

- /HIWRNNTFY** 管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /HIWRNSEV** 高警告しきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 4)。
- /HIWRNVAL** 高警告しきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。
- /LOERRNTFY**
管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /LOERRSEV** 低エラーしきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 2)。
- /LOERRVAL** 低エラーしきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。
- /LOWRNNTFY**
管理システムに関するしきい値の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /LOWRNSEV** 低警告しきい値に対するしきい値アラートの重大度 (0 ~ 7) を指定します (省略時値は 4)。
- /LOWRNVAL** 低警告しきい値の 10 進数値 (定義されている場合)、または NONE (省略時値) を指定します。
- /MONNAME** モニター名を指定します。
- /MONID** モニター ID を指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /RPT** しきい値の再送時間を表す秒数を指定します (省略時値は 0)。
- /RTNSEV** 正常復帰アラートの重大度を指定します (0 ~ 7、省略時値は 6)。
- /RTNNTFY** 管理システムに関する正常復帰の通知状態を指定します (ENABLED または DISABLED。省略時値は DISABLED)。
- /THRNAME** 選択の範囲を与えられた名前のしきい値に限定します。

/S ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSMONCL /EDITMONTHR には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード	説明
200	モニター ID または属性グループ ID が不明です
201	モニター名または属性グループ名が不明です
202	モニターしきい値名または属性グループしきい値名が不明です

第11章 システム情報ツール CLI (NFSYSICL)

以下では、Netfinity システム情報ツールのコマンドライン・ツール NFSYSICL について説明します。

NFSYSICL /?

構文

▶▶—NFSYSICL —/?—————▶▶

コマンドの目的

このコマンドは、NFSYSICL コマンドライン・ヘルプを表示します。

NFSYSICL /HIST

構文

```
▶—NFSYSICL — /HIST:ファイル名 —————▶  
└── /N:ネットワーク・パス ─┘  
▶ ───────────────────────────────────────────▶  
└── /S:"システム名" ─┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、指定されたファイル名で、履歴ファイルを生成します。

パラメーター記述

/HIST 履歴ファイルの名前を指定します。

/N ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。

/S ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSYSICL /HIST には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200 履歴ファイルへの書き込みエラーです

201 報告書ファイルへの書き込みエラーです

202 データベースのエクスポート中にエラーがありました

203 多くの NFSYSICL 機能を実行するタスク (SINFG30.EXE) が実行できません。要求された NFSYSICL アクションは、実行されませんでした。

NFSYSICL /HISTOUT

構文

```
▶▶—NFSYSICL — /HISTOUT —————▶
      └── /N:ネットワーク・パス ───┘
▶ ───────────────────────────────────▶
  └── /S:"システム名" ───┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、生成されたファイル名で履歴ファイルを生成し、出力を行います。

パラメーター記述

- /HISTOUT** 履歴ファイルの名前を指定します。
- /N** ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
- /S** ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSYSICL /HISTOUT コマンドの出力は、次のように表示されます。

```
HSTFILE="filename"
```

この HSTFILE 値は、出力が入っているファイルの名前です。

NFSYSICL /HISTOUT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** 履歴ファイルへの書き込みエラーです
- 201** 報告書ファイルへの書き込みエラーです
- 202** データベースのエクスポート中にエラーがありました
- 203** 多くの NFSYSICL 機能を実行するタスク (SINFG30.EXE) が実行できません。要求された NFSYSICL アクションは、実行されませんでした。

NFSYSICL /RPT

構文

```
▶─NFSYSICL ─ /RPT:ファイル名 ─┬─ /N:ネットワーク・パス ─▶  
└─ /S:"システム名" ─┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、指定されたファイル名で、テキスト報告書を生成します。

パラメーター記述

/RPT	テキスト・ファイルの名前を指定します。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。
/S	ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSYSICL /RPT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

200	履歴ファイルへの書き込みエラーです
201	報告書ファイルへの書き込みエラーです
202	データベースのエクスポート中にエラーがありました
203	多くの NFSYSICL 機能を実行するタスク (SINFG30.EXE) が実行できません。要求された NFSYSICL アクションは、実行されませんでした。

NFSYSICL /RPTOUT

構文

```
▶▶—NFSYSICL — /RPTOUT —————▶
      └─ /N:ネットワーク・パス ─┘
▶ ───────────────────────────────────▶
  └─ /S:"システム名" ─┘
```

コマンドの目的

このコマンドは、ファイルにテキスト報告書を生成します。出力も行います。

コマンド応答

NFSYSICL /RPTOUT コマンドの出力は、次のように表示されます。

```
RPTFILE="filename"
```

この RPTFILE 値は、報告書が含まれているファイルの名前です。

NFSYSICL /RPTOUT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** 履歴ファイルへの書き込みエラーです
- 201** 報告書ファイルへの書き込みエラーです
- 202** データベースのエクスポート中にエラーがありました
- 203** 多くの NFSYSICL 機能を実行するタスク (SINFG30.EXE) が実行できません。要求された NFSYSICL アクションは、実行されませんでした。

NFSYSICL /EXPORT

構文

```
▶—NFSYSICL — /EXPORT:dbi 名— /DBNAME:"データベース名" —————▶
                                   └── /NOPROF ───┘
▶ ┌── /NOSYSLEV ───┘ ┌── /MRG:"マネージャー名" ───┘ ┌── /GRP:"グループ名" ───┘
▶ ┌── /N:ネットワーク・パス ───┘ ┌── /S:"システム名" ───┘▶
```

コマンドの目的

このコマンドは、DBNAME パラメーターで指定されたデータベースへ、コマンドの中で指定されたデータベース・ドライバを使用してデータをエクスポートします。

パラメーター記述

/EXPORT	選択されたデータ・ベースへエクスポートするために使用されるデータベース・インターフェース・モジュール (DBI) の名前を指定します (たとえば、DB2OS2CI または DB2WINFI)。
/DBNAME	ターゲット・データベースの名前を指定します。
/GRP	システムのグループ名を指定します。省略時値はありません。
/MGR	要求を行うマネージャー・プログラムの名前を指定します。省略時の文字列は、ローカル・システムの名前です。
/NOPROF	システム・プロファイル・データが、必ずエクスポートから除外されるように指定します。省略時設定は、システム・プロファイル・データを含みます。
/NOSYSLEV	OS/2 SYSLEVEL ファイルからのソフトウェア情報が、必ずエクスポートから除外されるように指定します。省略時設定は、SYSLEVEL データを含みます。
/N	ターゲット・システムへのネットワーク・パスを指定します。

/S ターゲット・システムのシステム名を指定します。

コマンド応答

NFSYSICL /EXPORT には、次のようなツール特有の戻りコードがあります。

戻りコード 説明

- 200** 履歴ファイルへの書き込みエラーです
- 201** 報告書ファイルへの書き込みエラーです
- 202** データベースのエクスポート中にエラーがありました
- 203** 多くの NFSYSICL 機能を実行するタスク (SINFG30.EXE) が実行できません。要求された NFSYSICL アクションは、実行されませんでした。

構文図は、左端の 2 つの矢じり (▶▶) で始まり、主線にそって流れ、互いに向きあった 2 つの矢じり (◀◀) で終わります。

次の表のように、構文図は位置を利用して、キーワード、変数、パラメーターなどが、必須な値か、任意指定の値か、省略時値かを示しています。

構成要素の位置	意味
コマンドと同じ線上	必須
コマンドの線よりも上	省略時値
コマンドの線よりも下	任意指定

必須な構文

コマンド名、必須キーワード、必須変数、および必須パラメーターは常に構文の主線上にあります。図1 では、*rename* 変数は `CCPLOADF` コマンドでは、必ず使用しなければならない、ということを示しています。

▶▶—CCPLOADF *rename*————▶▶

図 1. 必須な構文の構成要素

キーワードおよびパラメーターは、大文字で記述されます。小文字または日本語は、与えられる値や名前などの、変数を意味します。図2 では、**MEMBER** がパラメーターで、**メンバー名**はそのパラメーターにデータ・セット・メンバーの名前を定義する変数です。

▶▶—TRANSMMSG MEMBER=**メンバー名**————▶▶

図 2. 変数を使用する構文

省略可能なキーワードと変数

省略可能なキーワード、変数、パラメーターなどは、構文の主線より下にあります。図3では、IDパラメーターはDISPREGコマンドで使用できるが、必須ではない、ということを示しています。

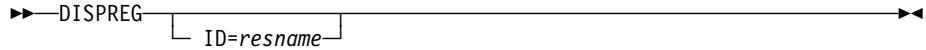


図 3. 構文の任意指定の構成要素

省略時の値

省略時の値は、構文の主線よりも上にあります。省略時値がキーワードの場合、主線より上にそのキーワードが表示されるだけです。このキーワードを指定することも、そのまま省略時値として使用することもできます。

パラメーターが省略時値を持っている場合、そのパラメーターは主線の上下両方に表示されます。主線よりも下にある値の意味は、パラメーターを指定するのであれば、省略時値を指定することも、表示されている他の値を指定することもできる、ということです。パラメーターを指定しなければ、主線よりも上にある省略時値が使用されます。

図4に示されるように、省略時のキーワードSTEPは主線よりも上にあり、残りの任意指定のキーワードは主線よりも下にあります。また、パラメーターMODNAME=*とOPTION=*の省略時値は、主線の上下両方にあります。

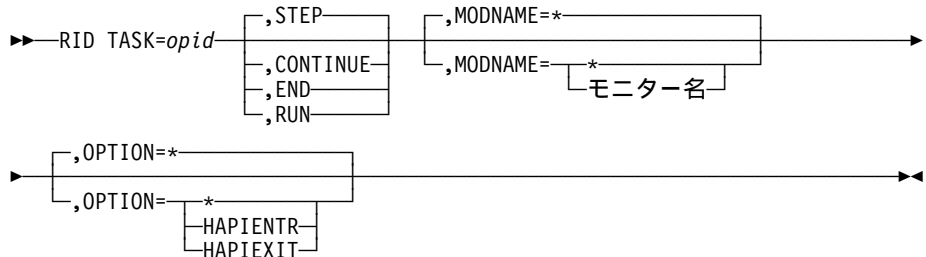


図 4. 省略時の構文例

長い構文図

構文図が 2 行以上になる場合、次へ続く行の終端には 1 つの矢じり (▶) があります。次の行の先頭にも、184 ページの図 4 に示されるように 1 つの矢じり (▶) があります。

構文のフラグメント

長いグループを持つコマンドや、そのコマンド中に繰り返し使用される部分を持つコマンドは、主要構文の次に、フラグメントとして分けて表示されます。フラグメントの名前は、大文字小文字混在で表示されます。図 5 の、フラグメント ReMote と FromTo を持つ構文を参照してください。

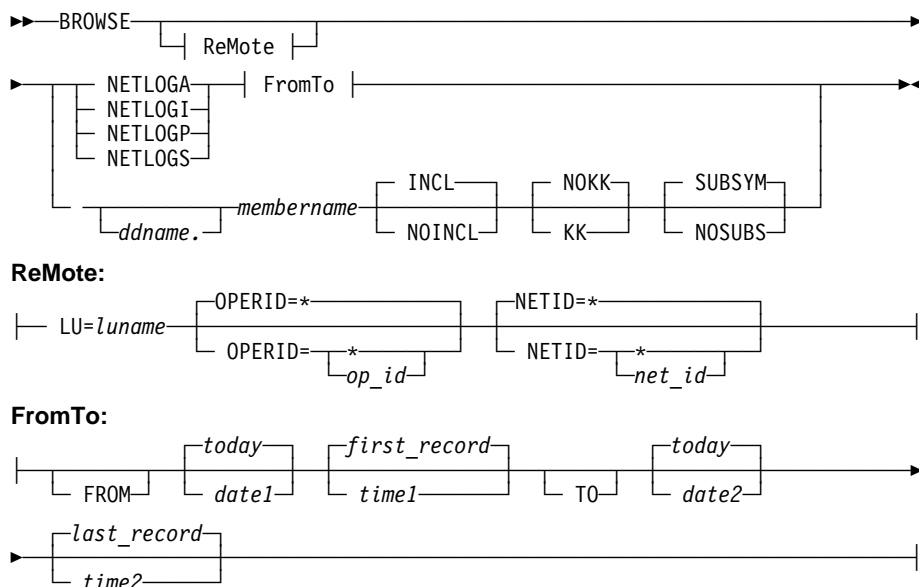


図 5. フラグメントを持つ構文図例

コンマと括弧

構文図の中には、必要なコンマと括弧が含まれています。パラメーターが複数の値を持つ場合、その値は一般的には、括弧で囲まれ、コンマで区切られています。図6では、たとえば **OP** パラメーターに含まれているコンマにより、*testop* 変数に対して複数の値を指定できることが分かります。

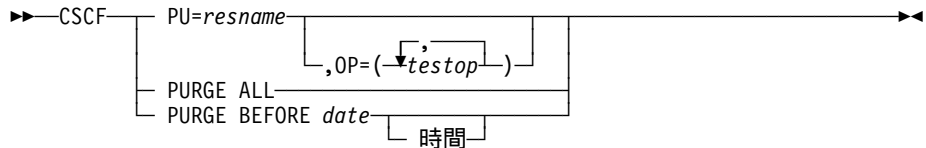


図 6. コンマを持つ構文図例

キーワードや変数を区切るための定位置コンマがコマンドに必要な場合、そのコンマは、184ページの図4で示されるようにキーワードや変数の前に表示されます。

たとえば、*sessid* 変数を持つ **BOSESS** コマンドを指定するには、次のように入力します。

```
NCCF BOSESS applid,,sessid
```

末尾に定位置コンマを指定する必要はありません。末尾の定位置および非定位置コンマは、無視されるか、またはコマンドが拒否される原因になります。各コマンドの制限の中で、末尾のコンマがコマンドの拒否される原因になるかどうかについて述べられています。

強調表示、大括弧、および中括弧

構文図は、強調表示、下線、大括弧、あるいは中括弧を利用することはありません。変数はイタリック体で表示されます。

パラメーター記述では、構文図中の構成要素を見ればすぐに、構成要素のタイプが分かります。構文の構成要素の表示形態については、表2を参照してください。

表 2. 構文の構成要素例	
構成要素	表示形態
キーワード	CCPLOADF
変数	<i>rename</i>
パラメーター	MEMBER=membername
省略時値	<i>today</i> または INCL

省略形

コマンドおよびキーワードの省略形は、各コマンドの説明の次の、同義語表に記述されています。

付録B. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

本書において使用されている以下の用語は、米国およびその他の国における、IBM社の商標です。

Netfinity OS/2

本書において使用されている次の用語は、他社の商標です。

Corel Corel Corporation

Microsoft、Windows、Windows NT、および Win32 は、Microsoft Corporationの商標または登録商標です。

Tivoli は、Tivoli Systems の商標です。

これら以外の会社、製品、およびサービスの名前にも、他社の商標またはサービス・マークがあります。

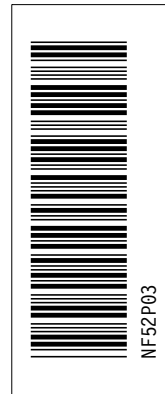
本製品の一部として、Corel clipart が含まれています。

本ソフトウェア製品の一部は、Independent JPEG Group の成果に基づいています。

IBM

部品番号: NF52P03

Printed in Japan



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6556-00